

大槌・気仙川国有林の地域別の森林計画書（案）
（大槌・気仙川森林計画区）

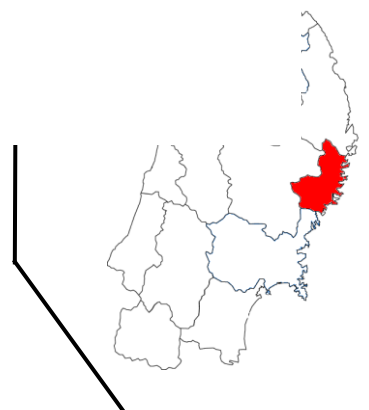
計画期間	自	平成27年4月1日
	至	平成37年3月31日

東北森林管理局

三陸中部森林計画区の位置図



	国有林
	官行造林



目 次

I 計 画 の 大 綱

第1	森林計画区の概況 -----	1
1	位置 -----	1
2	自然的背景 -----	1
3	社会経済的背景 -----	2
第2	前計画の実行結果の概要及びその評価 -----	4
第3	計画樹立に当たっての基本的考え方 -----	5

II 計 画 事 項

第1	計画の対象とする森林の区域 -----	6
第2	森林の整備及び保全に関する基本的な事項 -----	7
1	森林の整備及び保全の目標 その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項 -----	7
(1)	森林の整備及び保全の目標	
(2)	森林の整備及び保全の基本方針	
(3)	計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等	
2	その他必要な事項 -----	11
(1)	溪畔周辺の整備・保全	
第3	森林の整備に関する事項 -----	12
1	森林の立木竹の伐採に関する事項 -----	12
(1)	立木の伐採（主伐）の標準的な方法	
(2)	立木の標準伐期齢	
2	造林に関する事項 -----	14
(1)	人工造林に関する基本的な事項	
(2)	天然更新に関する基本的な事項	
3	間伐及び保育に関する事項 -----	15
(1)	間伐の標準的な方法	
(2)	保育の標準的な方法	
4	公益的機能別施業森林等の整備に関する事項 -----	16
(1)	公益的機能別施業森林の区域	

(2) 公益的機能別森林における施業の方法	
5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項	17
(1) 林道（林道専用道を含む。以下同じ。）等の 開設及び改良に関する基本的な考え方	
(2) 効率的な森林施業を推進するための 路網密度の水準及び作業システムの基本的考え方	
(3) 更新を確保するため林産物の搬出方法を 特定する必要のある森林の所在及びその搬出方法	
(4) その他必要な事項	
6 森林施業の合理化に関する事項	19
(1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針	
(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針	
(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針	
第4 森林の保全に関する事項	21
1 森林の土地の保全に関する事項	21
(1) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の 保全に特に留意すべき森林の地区	
(2) 森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を 特定する必要のある森林及びその搬出方法	
(3) 土地の形質の変更に当たって留意すべき事項	
2 保安施設に関する事項	22
(1) 保安林の整備に関する方針	
(2) 保安施設地区に関する方針	
(3) 治山事業に関する方針	
(4) その他必要な方針	
3 森林の保護等に関する事項	22
(1) 森林病虫害等の被害対策の方針	
(2) 鳥獣による森林被害対策の方針	
(3) 林野火災の予防の方針	
(4) その他必要な事項	
第5 計画量等	24
1 伐採立木材積	24
2 間伐面積	24
3 人工造林及び天然更新別の造林面積	24
4 林道の開設又は拡張に関する計画	25

5	保安林整備及び治山事業に関する計画	26
(1)	保安林として管理すべき森林の種類別面積等	
(2)	保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等	
(3)	実施すべき治山事業の数量	
第6	その他必要な事項	28
	保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法 --	28
別表	公益的機能別施業森林の区域及び施業方法	35
(附) 参考資料		
1	森林計画区の概況	38
(1)	市町村別土地面積及び森林面積	
(2)	地況（気候）	
(3)	土地利用の現況	
(4)	産業別生産額	
(5)	産業別就業者数	
2	森林の現況	40
(1)	齢級別森林資源表	
(2)	制限林普通林別森林資源表	
(3)	市町村別森林資源表	
(4)	制限林の種類別面積	
(5)	樹種別材積表	
(6)	荒廃地の面積	
(7)	森林の被害	
3	林業の動向	50
(1)	森林組合及び生産森林組合の現況	
(2)	林業事業体等の現況	
(3)	林業労働力の概況	
(4)	林業機械化の概況（高性能林業機械）	
4	前期計画の実行状況	53
(1)	伐採立木材積	
(2)	人工造林・天然更新別面積	
(3)	林道の開設又は拡張の数量	
(4)	保安施設の数量	
5	林地の異動状況（森林計画の対象森林）	54
(1)	森林より森林以外への異動	
(2)	森林以外より森林への異動	

6	森林資源の推移 -----	54
	(1) 分期別伐採立木材積等	
	(2) 分期別期首資源表	
7	その他 -----	56
	(1) 国有林の地域別の森林計画の沿革	
	(2) 担当者の役職及び氏名並びに樹立に従事した期間	

I 計画の大綱

第1 森林計画区の概況

1 位置

本森林計画区は岩手県南東部に位置し、北は久慈・閉伊川森林計画区、西は北上川中流森林計画区、南は宮城県の宮城北部森林計画区に接し、東は太平洋に臨む、大船渡市などの3市2町を包括する区域である。

2 自然的背景

(1) 地勢

本森林計画区は、中央部に五葉山（1,351 m）、愛染山（1,228 m）、雄岳（1,313 m）などの山岳を擁し、地形は一般に急峻である。一方、釜石市内の橋野地域は標高600～900 mの高原地形を呈し、起伏の少ない台地が広く発達している。

これら山地に源をもつ大槌川、小槌川、甲子川、気仙川及び盛川が東流又は南流して太平洋に注いでいる。

また、三陸海岸に近い地域は、比較的急傾斜の地形が多く、リアス式海岸となっている。

(2) 地質及び土壌

本森林計画区の地質は、古生代二畳紀以前の石灰岩、砂岩、粘板岩等が分布している。土壌は、黒色土が主体をなし、次いで褐色森林土、ポドゾル土となっている。その分布は、標高おおむね700m以下の山岳地帯には褐色森林土が多く、丘陵地帯には赤色系の褐色森林土が分布している。また、内陸部の高原地帯には主として黒色土が分布しており、北上山地のおおむね900m以上の地帯にはポドゾル土が出現する。

(3) 気候

平成16年～25年の10年間における気象観測データによれば、最高気温は37.0℃（大船渡市）、最低気温は－14.1℃（住田町）、年平均気温は約11.3℃である。年間降水量は1,300～1,700mm、最深積雪量は20cm（大船渡市）であり、降雪量は岩手県その他地域と比較して少ない。また、海岸地域は海洋の影響が大きく、冬季の季節風、夏季の降水量も少なく、寒暖の差が小さい。

(4) 林況

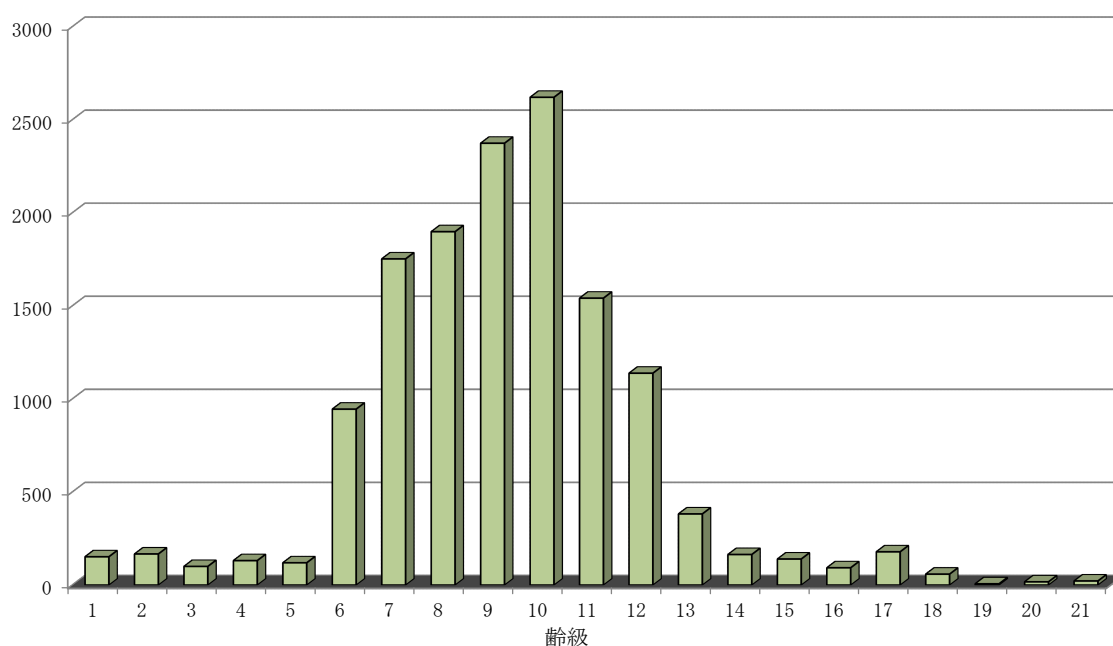
ア 人工林

本森林計画区の国有林の人工林面積は14千haで、立木地面積28千haの50%を占めている。人工林蓄積は2,476千m³で、総蓄積4,662千m³の53%を占めており、樹種別蓄積ではスギが29%、アカマツが26%、カラマツが21%となっている。

齢級別人工林面積は、下図のとおり7齢級～10齢級が人工林全体の62%を占めており、10齢級以上の高齢級人工林の割合は45%となっている。

面積 (ha)

大槌・気仙川森林計画区の国有林の齢級別人工林面積



注 齢級は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を「1 齢級」と数える。

イ 天然林

天然林面積は14千haで、立木地面積の50%を占め、ブナ、ナラ類、カンバ類等の広葉樹林とヒバ、ネズコ林そして丘陵地帯のアカマツ林からなっている。このうち、ブナ林は北上山地に局所的に分布しており、ヒバ、ネズコは五葉山を中心とする地域に分布している。また、クリ、ケヤキ、カンバ類は過去に伐採の繰り返された林分や放牧地、山火事の被害を受けた林分等に分布している。

3 社会経済的背景

(1) 土地利用の現況

本森林計画区の総面積は153千haで岩手県の総面積の10%を占めている。土地の利用状況は、森林が132千haで本計画区の86%を占め、農地が2%（水田1%）、その他が11%となっている。

(2) 地域産業の概要

本森林計画区の就業者総数は56千人で、その産業別の割合は第1次産業が11%、第2次産業が30%、第3次産業が59%である。総生産額は約2,733億円で、その産業別の割合は第1次産業が3%、第2次産業が39%、第3次産業が58%である。なお、第1次産業に占める林業の割合は、就業者数で6%、生産額では4%となっている。

また、平成23年3月に発生した平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（以下「東日本大震災」という。）により広範にわたる地域が甚大な被害を受け、国の総力を挙げて復旧・復興に向けた取組が進められている。

（３）計画区における国有林の位置付け

本森林計画区の国有林面積は30千haで、計画区内の土地面積153千haの20%、森林面積132千haの23%を占めている。国有林面積の割合は岩手県内の5計画区の中で最も低い、河川上流部に位置する国有林の割合が大きいため、河川の水質汚濁等の防止等、森林の有する公益的機能の高度な発揮が求められている。

また、釜石市の橋野高炉跡周辺を「橋野鉄鉱山郷土の森」として設定し、産業遺産の保全とともに学習の場としているほか、五葉山周辺地域が「五葉山県立自然公園」に指定されており、地域の保健休養の場として国有林が広く活用されている。



【黒岩から五葉山を望む（大船渡市）】

第2 前計画の実行結果の概要及びその評価

前計画の前半5ヵ年（平成22年度～平成26年度）の実行結果の概要については、次のとおりである。（平成26年度は実行予定を計上している。）

主伐については、分収林の契約相手の意向による伐期延長等により、計画を下回る実績となった。

間伐については、地球温暖化防止対策に資するための森林整備を積極的に推進したが、東日本大震災の影響等により、計画を下回る実績となった。

人工造林については、東日本大震災の影響等による立木販売箇所の搬出期間の延長に伴い、更新が次期計画に持ち越したことなどにより、計画を下回る実績となった。

天然更新については、東日本大震災の影響等により、計画を下回る実績となった。

林道等の開設については、豪雨等の自然災害により、当初見込まれていなかった災害箇所の拡張（改良）に優先的に対応したことや、東日本大震災の影響等により、計画を下回る実績となった。

治山事業については、豪雨等の自然災害により、当初見込まれていなかった箇所の災害復旧を優先して実行し、保安林の機能を高めるための本数調整伐を実施したことなどにより、計画を上回る実績となった。

○ 前計画の前半5ヵ年の実行結果の概要

	計 画	実 行
伐採立木材積	475 千m ³	295 千m ³ (62)
主伐	181 千m ³	125 千m ³ (69)
間伐	294 千m ³	171 千m ³ (58)
造林面積	397 ha	126 ha (32)
人工造林	384 ha	122 ha (32)
天然更新	13 ha	4 ha (30)
林道等の開設又は拡張	開設：11.8km(改良)：10箇所	開設：4.0km(34) (改良)：13箇所
保安林等の整備	指定：493ha 解除：ha	指定：ha 解除：1ha
水源かん養	指定：493ha 解除：ha	指定：ha 解除：1ha
災害防備	指定：ha 解除：ha	指定：ha 解除：ha
保健、風致の保存等	指定：ha 解除：ha	指定：ha 解除：ha
治山事業	54 地区	70 地区

注1 () 内の数値は計画量に対する実行量の割合(%)である。

注2 単位未満を四捨五入するため、総数と内訳の合計は必ずしも合致しない。

第3 計画樹立に当たっての基本的な考え方

森林は、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現に重要な役割を果たしており、また、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、我が国が有する貴重な再生可能資源である。その恩恵を国民が将来にわたって永続的に享受するには、森林を適正に整備・保全することが重要である。

とりわけ、戦後に積極的に造成された人工林を主体に蓄積が年々増加し、これらの人工林の多くが利用期を迎えつつある。森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るためには、適切な主伐・再造林を推進し、森林資源を有効に活用しながら、人工林の齢級構成の平準化を図るとともに、森林の現況、立地条件、国民のニーズ等を踏まえつつ、施業方法を適切に選択し、計画的に森林の整備及び保全を進め、望ましい森林の姿を目指すこととする。

その際、全ての森林は多種多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していることを踏まえ、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林をバランス良く配置するよう努めることとする。

さらに、これらの森林の整備及び保全の展開基盤として、路網整備の推進等の条件整備に取り組むことに努めることとする。

本計画においては、このような基本的な考え方に沿って、森林の整備及び保全の目標、森林施業に関する指針や路網整備に関する目標等森林の整備に関する事項、治山や森林の保護の方針等森林の保全に関する事項を明らかにすることとする。

なお、計画の樹立に当たっては、全国森林計画の計画事項に即しつつ、本森林計画区の特徴及び森林・林業等に関する諸施策の実施状況等を考慮し、民有林・国有林間での一層の連携強化のもと、その効率的な実行が図られるものとなるよう配慮することとする。

Ⅱ 計画事項

第1 計画の対象とする森林の区域

大槌・気仙川国有林の地域別の森林計画の対象とする森林面積は下表のとおりである。

○ 市町村別面積

単位 面積：ha

市 町 村	面 積	備 考
総 数	29,709.64	
大 船 渡 市	1,825.21	三陸中部森林管理署
陸 前 高 田 市	1,604.87	〃
釜 石 市	10,126.09	〃
住 田 町	7159.39	〃
大 槌 町	8,994.08	〃

注1 計画の対象とする森林の区域は、森林計画図において表示する区域内の国有林とする。

2 森林計画図の縦覧場所は、東北森林管理局計画課及び三陸中部森林管理署とする。

第2 森林の整備及び保全に関する基本的な事項

1 森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項

(1) 森林の整備及び保全の目標

本森林計画区の国有林においては、流域における農業その他経済活動の基盤となる安定的な水資源の確保に資するよう、全面的に水源涵養機能^{かん}の維持増進を図ることとする。そのため、育成単層林については、除伐、間伐等を適切に実施し、健全な森林の育成に努めるとともに、立地条件に応じて育成複層林への転換を推進することとする。また、地質的にぜい弱な地域等においては、特に山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進に配慮した森林整備や地質、気候等の地域の特性に応じた治山施設の整備を推進することとする。

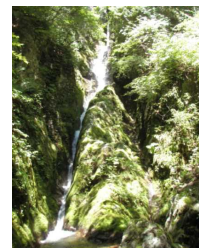
さらに、本森林計画区の国有林は、原生的あるいは優れた景観を有し、五葉山県立自然公園に指定されるなど、森林を利用したレクリエーションや保健休養の場として多くの人々に利用され、また貴重な野生動植物が多く生育・生息している森林も多く、このような森林においては、特に保健・レクリエーション機能及び生物多様性保全機能の維持増進に配慮して整備・保全していくこととする。

併せて、木材等生産機能については、上記の適切な施業の結果得られる木材を安定供給体制の整備等の施策の推進に寄与するよう計画的に供給することにより発揮することとする。

以上の目標の実現を図るに当たり、森林の有する各機能について、その機能発揮の上から望ましい森林資源の姿は次のとおりである。

(水源涵養機能^{かん})

下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林。



【千丈ヶ滝（釜石市）】

(山地災害防止機能／土壤保全機能)

下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林。



【イメージ】

(快適環境形成機能)

大気の浄化、騒音、飛砂や風を防ぐなど良好な生活環境を保全するために、樹高が高く枝葉が多く茂っているなど遮蔽能力や粉塵等の汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林。



【イメージ】

(保健・レクリエーション機能)

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林。



【五葉山自然観察教育林（住田町）】

(文化機能)

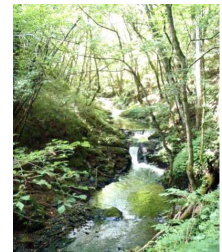
史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林。



【橋野鉄鉱山郷土の森（釜石市）】

(生物多様性保全機能)

原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林。



【小牧沢の清流（住田町）】

(木材等生産機能)

林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林。



【橋野地区（釜石市）】

(2) 森林の整備及び保全の基本方針

森林の整備及び保全に当たっては、森林の有する多面的機能を高度に発揮させるため、生物多様性の保全及び地球温暖化の防止に果たす役割並びに近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化も考慮しつつ、適切な森林施業の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進する。また、これらを踏まえ森林の状況を適確に把握するための森林資源のモニタリングの適切な実施や森林GISの効果的な活用を図ることとする。

具体的には、森林の有する諸機能が発揮される場である「流域」を基本的な単位として、森林の有する水源涵養、山地災害防止／土壤保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、生物多様性保全及び木材等生産の各機能を高度に発揮するための適切な森林施業の実施、林道等の路網の整備、保安林制度の適切な運用、治山施設の整備、森林病虫害や野生鳥獣による被害への対策などの森林の保護等に関する取組を推進する。また、機能類型区分に応じた適切な森林施業の結果得られる木材については、計画的に供給することとする。

森林の有するこれらの機能ごとの森林整備及び保全の基本方針を下表のとおり定める。

森林の有する機能	森林整備及び保全の基本方針
水源涵養機能	ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林並びに地域の用水源として重要なため池、湧水地及び溪流等の周辺に存する森林は、水源涵養機能の維持増進を図ることとする。 具体的には、良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とするとともに、伐採に伴って発生する裸地については、縮小及び分散を図ることとする。また、立地条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。 ダム等の利水施設上流部等において、水源涵養の機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進することを基本とする。
山地災害防止機能／土壤保全機能	山腹崩壊等により人命・人家等施設に被害を及ぼすおそれがある森林など、土砂の流出、土砂の崩壊その他山地災害の防備を図る必要のある森林は、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図ることとする。 具体的には、災害に強い国土を形成する観点から、地形、地質等の条件を考慮した上で、林地の裸地化の縮小及び回避を図る施業を推進することとする。また、立地条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。 集落等に近接する山地災害発生の危険性が高い地域等において、土砂の流出防備等の機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、溪岸の侵食防止や山脚の固定等を図る必要がある場合には、谷止や土留等の施設の設置を推進することを基本とする。

森林の有する機能	森林整備及び保全の基本方針
快適環境形成機能	国民の日常生活に密接な関わりを持つ里山等であって、騒音や粉塵等の影響を緩和する森林及び森林の所在する位置、気象条件等からみて風害、霧害等の気象災害を防止する効果が高い森林は、快適環境形成機能の維持増進を図ることとする。 具体的には、地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を推進することとする。 快適な環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、防風、防潮等に重要な役割を果たしている海岸林等の保全を推進することとする。
保健・レクリエーション機能	観光的に魅力のある高原、渓谷等の自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林など、国民の保健・教育的利用等に適した森林は、保健・レクリエーション機能の維持増進を図ることとする。 具体的には、国民に憩いと学びの場を提供する観点から、立地条件や国民のニーズ等に応じ広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進することとする。また、保健等のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。
文化機能	史跡、名勝等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林は、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から文化機能の維持増進を図ることとする。 具体的には、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進することとする。また、風致のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。
生物多様性保全機能	森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方に基づき、時間軸を通して適度な攪乱により常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることを目指すこととする。 とりわけ、原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林などの属地的に機能の発揮が求められる森林については、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全することとする。また、野生生物のための回廊の確保にも配慮した適切な保全を推進することとする。
木材等生産機能	林木の生育に適した森林で、効率的な森林施業が可能な森林は、木材等生産機能の維持増進を図ることとする。 具体的には、木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保育、間伐等を推進することを基本とする。この場合、施業の集団化や機械化を通じた効率的な整備を推進することを基本とする。

(3) 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等

○ 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態

単位 面積：ha、蓄積：m³/ha

		現 況	計画期末
面積	育成単層林 〔 森林を構成する林木を皆伐により伐採し、 人為※ ₁ により単一の樹冠層を構成する森林と して成立させ維持する森林 〕	14,078.80	13725.01
	育成複層林 〔 森林を構成する林木を択伐※ ₂ 等により伐採 し、人為により複数の樹冠層※ ₃ を構成する森 林として成立させ維持する森林 〕	254.73	268.11
	天 然 生 林※ ₄ 〔 主として天然力※ ₅ を活用することにより成立 させ維持する森林 〕	13,631.52	13630.33
	森林蓄積 (ha当たり)	166.73	193.65

※1 「人為」とは、目的に応じ、植栽、更新補助（天然下種更新のための地表かきおこし・刈払い等）、芽かき、下刈、除伐等の保育及び間伐等の作業を行うこと。

※2 「択伐」とは、森林内の成熟木を数年～数十年ごとに計画的に繰り返し伐採すること。

※3 「複数の樹冠層」とは、林齢や樹種の違いから樹木の高さが異なることにより生じるもの。

※4 「天然生林」には、未立木地、竹林等を含む。

※5 「天然力」とは、自然に散布された種子が発芽・生育することをいう。

2 その他必要な事項

(1) 溪畔周辺の整備・保全

溪流沿いや湖沼の周囲等溪畔周辺は、流域全体の生物多様性の保全に大きく貢献し、水系への土砂流出の抑制等公益的機能の発揮上重要な役割を果たしていることから、溪畔周辺の保全及びその機能や役割の維持・増進が図られるよう、本来成立すべき植生による上流から下流までの連続性の確保に努めることとする。

第3 森林の整備に関する事項

森林施業を実施するに当たっては、第2の1に定める森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的事項によるほか、次に掲げる基準によるものとする。

なお、保安林及び保安施設地区内の森林並びに森林法施行規則（昭和26年農林省令第54号）第10条に規定されている森林については、保全対象又は受益対象を同じくする森林ごとに制限の目的の達成に必要な施業を行うこととする。

また、森林の生物多様性の保全の観点から、施業の実施に当たっては、野生生物の営巣、餌場、隠れ場として重要な空洞木や枯損木、目的樹種以外の樹種であっても目的樹種の成長を妨げないものについては、保残に努めることとする。

1 森林の立木竹の伐採に関する事項

（1）立木の伐採（主伐）の標準的な方法

ア 育成単層林に導くための施業を行う森林

人工造林、ぼう芽更新又は天然下種更新により高い林地生産力が期待される森林及び森林の有する公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。

（ア）主伐に当たっては、自然的条件及び公益的機能の確保についての必要性を踏まえ、1箇所当たりの伐採面積の規模及び伐採箇所の分散に配慮することとする。1箇所当たりの伐採面積の限度は、おおむね5ha以下（法令等による伐採面積の上限が5ha以下で指定されている場合にあってはその制限の範囲内）とする。ただし、分収林等の契約に基づく森林は契約内容による。また、林地保全、雪崩及び落石等の防止、寒風害等の各種被害の防止、風致の維持等のため必要がある場合には、所要の保護樹帯を設置することとする。

（イ）主伐の時期については、立木の標準伐期齢以上とし、地域の森林構成を踏まえ、公益的機能の発揮との調和に配慮し、木材等資源の効率的な循環・利用を考慮して、適切な林齢で伐採することとする。

また、伐期の長期化を行う場合は、標準伐期齢のおおむね2倍に相当する林齢を超える林齢において主伐を行うこととする。

主な樹種別の主伐の時期は下表のとおりとする。

単位 林齢：年

地 区	樹 種	施業方法	主伐の時期	更新方法
全 域	ス ギ	通常伐期	60	新 植
		長伐期	100	新 植
	カラマツ	通常伐期	60	新 植
		長伐期	80	新 植
	アカマツ	通常伐期	50	天然下種
		長伐期	100	天然下種

(ウ) 天然更新を前提とする場合には、種子の結実状況、天然稚樹の生育状況、母樹の保残等に配慮することとする。

イ 育成複層林に導くための施業を行う森林

人為と天然力の適切な組み合わせにより複数の樹冠層を構成する森林として成立し、森林の諸機能の維持増進が図られる森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。

なお、主伐に当たっては、複層状態の森林に確実に誘導する観点から自然的条件を踏まえ、森林を構成している樹種、林分構造を勘案して行うこととする。また、立地条件、下層木の生育条件等を踏まえ、帯状の伐採等の効率的な施業の実施についても考慮することとする。

(ア) 択伐による場合は、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適正な林分構造となるよう、一定の立木材積を維持するものとし、適切な伐採率及び繰り返し期間によることとする。

(イ) 漸伐又は複層伐による場合は、伐採率、伐採区域の形状、伐採面積の規模、伐採箇所の分散等に配慮することとする。

(ウ) 天然更新を前提とする場合には、種子の結実状況、天然稚樹の生育状況、母樹の保残等に配慮することとする。

ウ 天然生林に導くための施業を行う森林

気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、主として天然力を活用することにより適確な更新及び森林の諸機能の維持増進が図られる森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。

(ア) 主伐に当たっては、イの主伐についての留意事項によることとする。

(イ) 国土の保全、自然環境の保全、種の保存等のために禁伐その他の施業を行う必要のある森林については、その目的に応じて適切な施業を行うこととする。

(2) 立木の標準伐期齢

標準伐期齢は、森林の有する公益的機能、既往の平均伐採齢及び森林の構成を勘案し、樹種ごとに平均成長量が最大となる年齢を基準として下表のとおり定める。

地 区	樹 種				
	スギ	アカマツ・クロマツ	カラマツ	その他針葉樹	広葉樹
全 域	40	40	35	45	25

注 標準伐期齢は、立木の伐採（主伐）の時期に関する指標として定め、保安林の伐採規制等に用いられる。

2 造林に関する事項

(1) 人工造林に関する基本的な事項

ア 人工造林の対象樹種

人工造林における造林すべき樹種は、適地適木を原則とし、気候、地形、土壌等の自然条件を適確に把握した上で、既往の造林実績及び林産物の需要動向等を勘案して、現地の状況に最も適合した樹種を選定することとする。

イ 人工造林の植栽本数

人工造林における植栽本数は、下表を目安とし、立地条件及び有用天然木の稚幼樹の成立状況等に応じて調整する。なお、複層林施業については、下表の植栽本数に複層伐の伐採率を乗じて得られる本数を目安とする。

ただし、保安林で植栽指定のある場合は、その指定本数以上とする。

単位：本/ha

樹 種	植栽本数
ス ギ	2,500～3,000
カラマツ	2,000～2,500
ヒノキ	3,000～3,500

ウ 人工造林の標準的な方法

(ア) 地拵

林地の保護及び地力の維持を図りつつ確実な更新を行うため、末木枝条の存置状況、植生、地形等に応じた効率的な作業方法を選択することとする。

アカマツ等の有用天然木の稚幼樹が群状に生育している場合は、これを育成していくこととする。

(イ) 植付

健全な苗木を用い、適期、適作業により活着率の向上と植栽当年からの旺盛な成長が期待できるよう実施する。

エ 伐採跡地の人工造林すべき期間

公益的機能の維持、早期回復を図るため、人工造林によるものについては、原則として2年以内とする。

(2) 天然更新に関する基本的な事項

ア 天然更新の対象樹種

天然更新補助作業の対象樹種は、アカマツ、ブナ等の有用天然木とする。

イ 天然更新の標準的な方法

更新を確保し、成林させるため、地表処理、刈出し、植込み等の更新補助作業を実施することが必要かつ適当な森林については、それぞれの森林の状況に応じた方法により、施

業を行うこととする。

また、天然更新完了確認調査において、更新完了の目途が立たないと判断される場合は、刈出し等の更新補助作業を行うなど必要な措置を講ずるものとする。

(ア) 地表処理

ササや粗腐植の堆積等により天然更新が阻害されている箇所において、かき起こし、枝条整理等の作業を行うこととする。

(イ) 刈出し

ササなどの下層植生により天然稚樹の生育が阻害されている箇所について行うこととする。

(ウ) 植込み

天然稚樹等の生育状況等を勘案し、天然更新の不十分な箇所に必要な本数を植栽することとする。

3 間伐及び保育に関する事項

(1) 間伐の標準的な方法

ア 間伐の時期

間伐は、林冠が閉鎖して林木相互間の競争による優劣が生じた時期から行うものとするが、その目安は上層木の樹高がおおむね9 m、かつ収量比数がスギで0.60以上、アカマツで0.70以上、カラマツで0.65以上とする。

ただし、林分状況や近隣林分の間伐の実施状況等を踏まえ、間伐を実施することが適当と判断される場合は、これらの目安に満たない林分においても、間伐の実施について考慮することとする。

イ 間伐の繰り返し期間

林冠が再び閉鎖する期間と間伐効果が成長に及ぼす期間を考慮して決定することとし、その目安はおおむね10年（ただし、カラマツにあつては8年）とする。

ただし、高齢級（60年生以上）の林分については、林冠の閉鎖する期間を考慮して、15年以上を目安とする。

ウ 最終間伐の時期

主伐予定時期のおおむね10年前（ただし、カラマツにあつては8年前）とする。

エ 間伐率

材積間伐率は35%を超えないものとする。

なお、保安林指定施業要件等、法令により間伐率に制限が定められている場合は、その範囲内とする。

(2) 保育の標準的な方法

林木の保育は、健全な森林を確実に造成することを目的とし、その標準的な方法は以下の

とおりとする。なお、その実施に当たっては画一性を排し、植栽木の生育状況等現地の実態に即した効果的な作業の時期、回数等を十分検討の上、適切に行うこととする。

ア 作業時期及び回数

作業別の作業時期及び回数の目安は下表のとおりとする。

樹種	作業別		保育作業計画（年）														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
スギ	下刈		△	○	○	○	○	△									
	つる切・除伐								←	○	→		←	○	→		
アカマツ	下刈	人工林	○	○	○	○	△										
		天然林	◎	◎	○	○	○										
	つる切・除伐							←	○	→		←	○	→			
カラマツ	下刈		○	○	○	△											
	つる切・除伐						←	○	→		←	○	→				

注 ◎は2回刈り、△は必要に応じて実施することを示す。

イ 施業方法の基準

（ア）下刈

植栽木、有用天然木の生育状況及び植生の状況等現地の実態により適切な作業方法を採用し、効率的な作業を行うこととする。下刈終期の目安は、植栽木の高さが雑草木より抜き出て、植栽木の生育に支障がなくなった時期とする。

（イ）つる切

つる類の繁茂状況により必要に応じ実施することとする。なお、かん木類の発生状況を勘案して極力除伐作業と同時に行うこととする。

（ウ）除伐

下刈の終了後、林分が閉鎖するまでの段階で有用天然木の育成に配慮しつつ、目的樹種の生育を阻害している侵入木及び将来成育の見込みのない形質不良な植栽木の除去を目的として行うこととする。

豪雪地帯における急激な疎開は、雪害の危険があるので植栽木と侵入木の相互の配置状況を考慮し漸進的に行うこととする。

4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

（1）公益的機能別施業森林の区域

公益的機能別施業森林の区域については以下の考え方に従い、別表（p35参照）のとおり定める。

ア 水源涵養機能^{かん}の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

水源涵養機能^{かん}の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域に係る地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地等についてはこの限りでない。

イ 土地に関する山地災害防止機能／土壤保全機能、快適環境形成機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

(ア) 土地に関する山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

山地災害防止機能／土壤保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域に係る地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地等についてはこの限りでない。

(イ) 快適環境形成機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

快適環境形成機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。

(ウ) 保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

保健・レクリエーション機能／文化機能／生物多様性保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。ただし、狭小な区域を単位として定めることに特別な意義を有する保護林、レクリエーションの森等についてはこの限りでない。

(2) 公益的機能別施業森林における森林施業の方法

ア 水源涵養機能^{かん}の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

当該区域内における施業の方法は、伐期の間隔の拡大とともに伐採面積の縮小・分散を図ることを基本として、下層植生の維持（育成複層林施業にあっては下層木の適確な生育）を図りつつ、根系の発達を確保するとともに、立地条件に応じて長伐期施業、択伐による複層林施業、択伐以外の方法による複層林施業を推進することとする。

イ 土地に関する山地災害防止機能／土壤保全機能、快適環境形成機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域

当該区域内における施業の方法は、それぞれの区域の機能に応じて森林の構成を維持し、樹種の多様性を増進することを基本として、長伐期施業、択伐による複層林施業、択伐以外の方法による複層林施業など、良好な自然環境の保全や快適な利用のための景観の維持・形成を目的とした施業の方法を選択することとする。

5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項

(1) 林道（林業専用道を含む。以下同じ。）等の開設及び改良に関する基本的な考え方

林道等の開設及び改良については、傾斜等の自然条件、事業量のまとまり等地域の特性に応じて、環境負荷の低減に配慮し、木材の搬出を伴う間伐の実施や多様な森林への誘導等に必要森林施業を効果的かつ効率的に実施するため、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムに対応したものとする。

また、林道の開設に当たっては、森林の利用形態や地形・地質等に応じて、丈夫で簡易な

規格・構造を柔軟に選択するとともに、森林施業の優先順位に応じた整備を推進することとする。

○ 基幹路網の現状

単位 延長：km

	路線数	延長
基幹路網	60	207
うち林業専用道を含む路線	1	2

注1 基幹路網は自動車道、軽車道の計である。

注2 現状については、平成26年3月31日現在の数値である。

- (2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的な考え方
高性能林業機械を含む機械作業システムの導入を推進するとともに、効率的な森林施業に資するため、その目安となる路網密度の水準及び作業システムの考え方は下表のとおりである。

○ 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準

単位 路網密度：m/ha

	作業システム	路網密度	
			基幹路網
緩傾斜地（0°～15°）	車両系作業システム	100以上	35以上
中傾斜地（15°～30°）	車両系作業システム	75以上	25以上
	架線系作業システム	25以上	25以上
急傾斜地（30°～35°）	車両系作業システム	60以上	15以上
	架線系作業システム	15以上	15以上
急峻地（35°～）	架線系作業システム	5以上	5以上

注1 「車両系作業システム」とは、林内にワイヤーロープを架設せず、車両系の林業機械により林内の路網を移動しながら木材を集積、運搬するシステム。フォワーダ等を活用する。

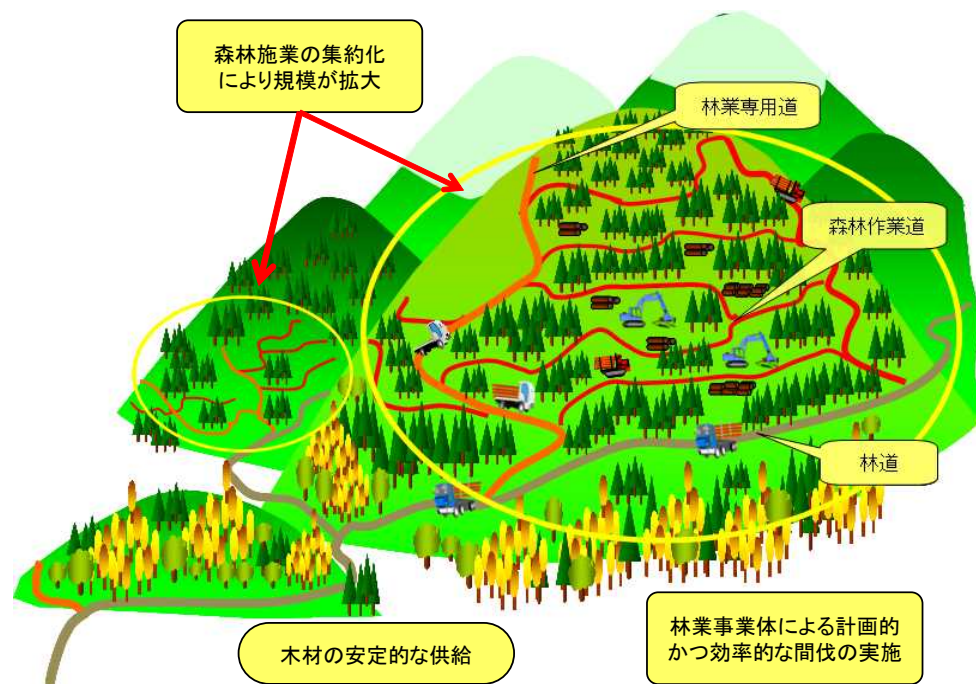
注2 「架線系作業システム」とは、林内に架設したワイヤーロープに取り付けた搬器等を移動させて木材を吊り上げて集積するシステム。タワーヤード等を活用する。

- (3) 更新を確保するため林産物の搬出方法を特定する必要がある森林の所在及びその搬出方法

該当なし。

- (4) その他必要な事項

林道等の開設に当たっては、林地の保全に留意するとともに、民有林と連絡調整を図りつつ、公道、民有林林道の配置状況等を勘案して路網の整備に努めることとする。



【効率的な森林施業のイメージ】

6 森林施業の合理化に関する事項

(1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針

森林の流域管理システムの確立及び国有林野事業における事業の民間実行の徹底を図る上で、合理的かつ効率的な事業規模、機械装備等を有する経営体質の強い林業事業者の育成・強化が重要である。

このため、林業事業者の体質強化、高性能林業機械の開発・導入、林業労働者の就労条件の改善、労働安全衛生の確保等に関する一般林政施策の充実とあいまって、国有林野事業としても次の方策により林業事業者の育成・強化を図るとともに、これらを通じて優れた林業労働者の確保に資することとする。

ア 事業の計画的・安定的な発注等により経営の安定化を図る。

イ 事業主への労働安全衛生対策に関する指導、就労条件の改善への配慮等を行うとともに、森林施業の多様化等に対応した実行体制を確保しうよう施工管理体制の確立に関する指導や技術指導等を行う。

(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針

作業システムの高度化については、森林施業の効率化や労働災害の減少等に資する高性能林業機械の導入が重要であり、これまで国有林・民有林が連携してその普及に努めた結果、高性能林業機械を活用した作業システムへの移行は着実に広まりつつあり、労働生産性の向上、生産コストの縮減に一定の効果を上げているものの、さらなるコスト縮減等に向けて、今後も継続して普及に努めていく必要がある。

このため、民有林関係者と連携を図りつつ、現地検討会等を通じた高性能林業機械を含む機械作業システムの指導・普及、オペレーターを養成するための研修フィールドの提供に取

り組むほか、路網の整備、事業規模の確保に配慮した請負事業の発注に努め、林業事業体の高性能林業機械導入の促進に寄与するよう努めることとする。

(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針

国有林材の安定供給システムによる販売等を通じて木材の計画的、安定的な供給や供給ロットの拡大に努め、木材の安定的取引関係の確立等による流通・加工コストの低減に寄与し、需要者のニーズに即した製品を供給し得る体制の確立に民有林と連携しながら取り組むこととする。

第4 森林の保全に関する事項

1 森林の土地の保全に関する事項

(1) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区

単位 面積：ha

森 林 の 所 在		面 積	留意すべき事項	備 考
市 町 村	区 域 (林班)			
総 数		25,676.70	1 保安林等については、指定の目的の達成に必要な施業を行う。 2 立木の伐採に当たっては、山地災害防止機能等に支障を及ぼすことのないよう留意する。土地の形質変更は極力行わない。やむを得ず行う場合は、必要最小限の規模とし、土砂の流出の防止等の施設を設けるなど林地の保全に十分留意するものとする。	
大 船 渡 市	17～24, 59, 60	1,517.98		
陸前高田市	45～51, 55, 56, 58 (陸) 31	903.78		
釜 石 市	101～121, 123～144, 301～307, 309～314, 356, 357, 359, 363, 364, 367～369, 371, 372, 374, 376, 377, 379, 383～394, 396, 399～401, 403～405	9,029.95		
住 田 町	1～12, 25, 27～36, 38, 41～44, 62～67, 69, 73, 75 (上) 1～5 (三) 1	6,178.09		
大 槌 町	145～158, 160～168, 173～180, 183, 186～193, 198～204, 207～214, 216～219, 221～238	8,046.90		

注 () 書きは官行造林地で契約者等名称は以下のとおり。

(陸)：陸前高田市

(上)：住田町上城・城内（千葉興二）

(三)：住田町三ツ峰（佐藤新五郎）

(2) 森林の土地の保全のための林産物の搬出方法を特定する必要がある森林及びその搬出方法

該当なし。

(3) 土地の形質の変更に当たっての留意すべき事項

土地の形質の変更に当たっては、林地の保全に十分に留意することとし、地形及び地質等の条件、土地の形質変更の目的及び内容を勘案して、実施地区の選定を行うこととする。

土石の切取、盛土を行う場合には、法勾配の安定を図り、必要に応じて法面保護のための緑化工、土留工等の施設又は、排水施設等を設けることとする。また、その他の土地の形質の変更を行う場合には、その態様に応じて土砂の流出、崩壊等の防止に必要な施設を設ける等適切な保全措置を講ずることとする。

2 保安施設に関する事項

(1) 保安林の整備に関する方針

本森林計画区における森林に関する自然的条件、社会的要請及び保安林の配備状況を踏まえ、特に公益的機能の発揮が要請される森林については、保安林として適切に管理・保全していくこととする。

また、第3の4で定める公益的機能別施業森林の区域については、その機能を十分に発揮できるよう、必要に応じて保安林の指定施業要件の見直しを行うこととする。

(2) 保安施設地区に関する方針

該当なし。

(3) 治山事業に関する方針

治山事業については、国民の安全・安心の確保を図る観点から、災害に強い地域づくりや水源地域の機能強化を図ることとする。近年、頻発する集中豪雨や地震等による大規模災害の発生のおそれが高まっていることを踏まえ、山地災害による被害を未然に防止・軽減する事前防災・減災の考え方に立ち、緊急かつ計画的な実施を必要とする荒廃地等を対象として、治山施設等の設置と保安林の整備を推進することとする。

また、ダム上流等の重要な水源地や集落の水源地となっている保安林については、浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林の維持・造成を推進することとする。

加えて、流域保全の観点からの関係機関との連携や地域における避難体制の整備などのソフト対策との連携を通じた効果的な治山対策を講ずることとする。

(4) その他必要な事項

保安林の適切な管理を確保するため、保安林台帳の調整、標識の設置、巡視等を適正に行うほか、衛星デジタル画像等を活用し、保安林の現況等に関する情報の総合的な管理を推進することとする。

3 森林の保護等に関する事項

(1) 森林病虫害等の被害対策の方針

森林病虫害等の被害対策については、保護樹帯の設置、適切な保育の実行等により病虫害等の森林被害に対する抵抗性の高い森林の整備等、被害の未然防止に努めるとともに、早期

発見及び早期駆除に努め、日常の管理を通じて適時適切に行うこととする。

特に、松くい虫による被害については、岩手県内では県南部から県央部にかけて被害地域の北上や高標高地域への拡大が見受けられることから、被害抑制のための健全な松林の整備と関係機関と連携した監視活動等の一層の推進を図ることとする。なお、被害の状況等に応じ、被害箇所の復旧及び抵抗性を有するマツ又は他樹種への転換についても考慮することとする。

また、ナラ枯れ被害については、岩手県内においても被害が確認されていることから、重点的に巡視を行い早期発見に努めるとともに、適切な防除対策の推進を図ることとする。

（２）鳥獣による森林被害対策の方針

野生鳥獣による森林被害については、その防止に向け、鳥獣保護管理施策や農業被害対策との連携を図りつつ、森林被害のモニタリングを推進し、その結果を踏まえて、関係機関と連携して広域的な対策を総合的かつ効果的に推進することとする。

特に、ニホンジカによる植栽木等の食害や剥皮被害については、森林の有する公益的機能への影響を踏まえ、地方公共団体等との連携を図りつつ、地域の実情に応じた被害対策に取り組むこととする。

（３）林野火災の予防の方針

山火事等の森林被害を未然に防止するため、林内歩道等の整備を図りつつ、地元住民、地方公共団体、ボランティア等との連携を図り、林野巡視、山火事警防等を適時適切に実施することとする。

（４）その他必要な事項

森林の適正な保護のため、森林の面積、管理状況等を勘案して、林内歩道等の整備を図るとともに、森林の保護思想の普及のための標識設置等を行うこととする。

第5 計画量等

1 伐採立木材積

単位 材積：千m³

区 分	総 数			主 伐			間 伐		
	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹
総 数	939	846	92	318	292	25	621	554	67
前半5ヵ年の計画量	513	421	92	195	169	25	318	251	67

2 間伐面積

単位 面積：ha

区 分	間伐面積
総 数	8,685
前半5ヵ年の計画量	4,060

3 人工造林及び天然更新別の造林面積

単位 面積：ha

区 分	人工造林	天然更新
総 量	650	329
前半5ヵ年の計画量	357	59

4 林道の開設又は拡張に関する計画

単位 延長：km 面積：ha

開設／ 拡張	種類	区分	位 置 (市町村)	路線名	延長	利用区 域面積	前半５ヵ年 の計画箇所	対図 番号	備 考
開設	自動 車道	林 業 専用道	陸前高田市	小赤府沢	0.5	90	○	1	
				高畑	2.0	220		2	
				小 計	2 路線	2.5			
			釜石市	北川目	4.0	380	○	3	
				中川目	1.8	190	○	4	
				赤坂	2.5	160	○	5	
				クル沢	5.0	430		6	
			小 計	4 路線	13.3				
			住田町	小股	1.8	140	○	7	
				辰砂沢	2.2	250	○	8	
				天望沢	2.4	210	○	9	
				武士水沢	6.7	300		10	
				大股	4.0	400		11	
			小 計	5 路線	17.1				
			大槌町	ヒヤマ沢	3.0	420		12	
				折合	7.5	555		13	
			小 計	2 路線	10.5				
合 計				13路線	43.4				
前半５ヵ年の計画量				7 路線	15.2				

注 単位未満を四捨五入するため、総数と内訳の合計は必ずしも合致しない。

5 保安林の整備及び治山事業に関する計画

(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等

① 保安林として管理すべき森林の種類別の計画期末面積

単位 面積：ha

保安林の種類	面 積		備 考
		前半5ヵ年の 計画面積	
総数（実面積）	25,872.61	25,872.61	
水源かん養のための保安林	25,363.28	25,363.28	
災害防備のための保安林	9.31	9.31	
保健、風致の保存等のための保安林	1,614.65	1,614.65	

注 総数欄は、2以上の目的を達成するために指定される保安林があるため、水源涵養のための保安林等の内訳の合計に一致しない。

② 計画期間内において保安林の指定又は解除を相当とする森林の種類別の所在及び面積等

該当なし。

③ 計画期間内において指定施業要件の整備を相当とする森林の面積

該当なし。

(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等

該当なし。

(3) 実施すべき治山事業の数量

単位 地区

森林の所在		治山事業施工地区数		主な工種	備 考
市町村	区 域		前半５ヵ年の計画		
大船渡市	24, 59, 60	3	3	本数調整伐	
陸前高田市	45～49, 55, 56, 58	8	6	本数調整伐	
釜石市	102～121, 123～126, 128, 132, 134～137, 140～143, 302, 303, 311, 313, 356, 357, 359, 364, 367, 372, 376, 379, 383～385, 388, 389, 391～394, 396, 400, 401, 403, 404	61	48	溪間工 山腹工 本数調整伐	
住田町	25, 27～35, 38, 41～44, 62～67, 69, 73,	22	19	溪間工 山腹工 本数調整伐	
大槌町	145～155, 157～167, 169, 172～180, 183, 186～193, 195, 198～204, 207～214, 216～219, 221, 222, 224～228, 230～236	74	45	溪間工 本数調整伐	
合 計		168	121		

第6 その他必要な事項

○ 保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法

単位 面積：ha

種 類	森 林 の 所 在		面 積	施業方法	備 考 (重複制限林)
	市 町 村	区 域 (林 班)			
水かん	大 船 渡 市	17～22, 24, 59, 60	1,504.81	別紙1の とおり	保 健 252.61 県特1 47.80 県特2 204.81 県特3 757.02 鳥保特 279.62
	陸前高田市	45～49, 55, 56, 58 (陸) 31	896.48		
	釜 石 市	101～121, 123～144, 301～304, 311～314, 356, 357, 359, 363, 364, 367～369, 371, 372, 374, 376, 377, 379, 383～394, 396, 399～401, 403～405	8,879.42		保 健 544.74 県特1 83.28 県特2 238.22 県特3 253.24 砂 指 6.07 鳥保特 288.51
	住 田 町	5～12, 25, 27～35, 38, 41～44, 62～67, 69, 73, 75 (三)1, (上)1～5	6,107.37		保 健 317.28 県特1 55.80 県特2 261.48 県特3 343.37 砂 指 12.80 鳥保特 261.29
	大 槌 町	145～158, 160～168, 173～180, 183, 186～193, 198～204, 207～214, 216～219, 221～238	7,975.20		砂 指 1.25
	小 計		25,363.28		
	土 流	大 船 渡 市	21		県特3 0.17
土 崩	小 計		0.17		
	陸前高田市	50, 51	2.92		
	住 田 町	32, 63	6.22		
保 健	小 計		9.14		
	大 船 渡 市	17～20	252.61		水かん 252.61 県特1 47.80 県特2 204.81 鳥保特 195.88

種 類	森 林 の 所 在		面 積	施業方法	備 考 (重複制限林)
	市 町 村	区 域 (林 班)			
保 健	釜 石 市	301～310	1,044.70	別紙１の とおり	水かん 544.74 県特１ 131.70 県特２ 551.91 県特３ 361.09 鳥保特 609.64
	住 田 町	5～8	317.34		水かん 317.28 県特１ 55.86 県特２ 261.48 鳥保特 261.35
	小計		1,614.65		
	計		26,987.24		
砂 指	大 船 渡 市	59, 60	4.18	別紙３の とおり	
	釜 石 市	115, 119, 120, 125～128, 130, 132, 134, 135, 314, 404	13.49		水かん 6.07
	住 田 町	30, 32	12.80		水かん 12.80
	大 槌 町	145, 160, 193	1.87		水かん 1.25
	計		32.34		
県特１	大 船 渡 市	17～20	47.80		水かん 47.80 保 健 47.80 鳥保特 38.87
	釜 石 市	301～304, 307, 309, 310	131.77		水かん 83.28 保 健 131.70 鳥保特 86.25
	住 田 町	5～7	55.86		水かん 55.80 保 健 55.86 鳥保特 36.57
	小計		235.43		
県特２	大 船 渡 市	17～20	204.81		水かん 204.81 保 健 204.81 鳥保特 157.01
	釜 石 市	303～307, 309, 310	551.92		水かん 238.22 保 健 551.91 鳥保特 523.39

種 類	森 林 の 所 在		面 積	施業方法	備 考 (重複制限林)
	市 町 村	区 域 (林 班)			
県特 2	住 田 町	5～8	265.91	別紙 3 の とおり	水かん 261.48 保 健 261.48 鳥保特 224.78
	小計		1,022.64		
県特 3	大 船 渡 市	17～22	836.75		水かん 757.02 土 流 0.17 鳥保特 83.74
	釜 石 市	301, 302, 305～308, 404	648.14		水かん 253.24 保 健 361.09
	住 田 町	7～12 (姥) 5, 6	364.33		水かん 343.37
	小計		1,849.22		
計			3,107.29		
鳥保特	大 船 渡 市	17, 18	279.62		水かん 279.62 保 健 195.88 県特 1 38.87 県特 2 157.01 県特 3 83.74
	釜 石 市	303, 304, 309, 310	609.64		水かん 288.51 保 健 609.64 県特 1 86.25 県特 2 523.39
	住 田 町	5, 6	261.35		水かん 261.29 保 健 261.35 県特 1 36.57 県特 2 224.78
	計		1,150.61		

注 1 種類及び備考欄の重複制限林の略称は、以下のとおり。

水かん＝水源かん養保安林

県特 1＝県立自然公園第 1 種特別地域

土 流＝土砂流出防備保安林

県特 2＝県立自然公園第 2 種特別地域

土 崩＝土砂崩壊防備保安林

県特 3＝県立自然公園第 3 種特別地域

保 健＝保健保安林

鳥保特＝鳥獣保護区特別保護地区

砂 指＝砂防指定地

注 2 () 書きは官行造林地で契約者等名称は以下のとおり。

(陸) 陸前高田市

(上) 住田町上城・城内 (千葉興二)

(三) 住田町三ツ峰 (佐藤新五郎)

(姥) 住田町姥石・愛染

別紙 1 保安林の指定施業要件

事 項	基 準
1 伐採の方法	1 主伐に係るもの (1) 水源のかん養又は風害、干害若しくは霧害の防備をその指定の目的とする保安林にあつては、原則として、伐採種の指定をしない。 (2) 土砂の流出の防備、土砂の崩壊の防備、飛砂の防備、水害、潮害若しくは雪害の防備、魚つき、航行の目標の保存、公衆の保健又は名所若しくは旧跡の風致の保存をその指定の目的とする保安林にあつては、原則として、択伐による。 (3) なだれ若しくは落石の危険の防止若しくは火災の防備をその指定の目的とする保安林又は保安施設地区内の森林にあつては、原則として、伐採を禁止する。 (4) 伐採の禁止を受けない森林につき伐採をすることができる立木は、原則として、標準伐期齢以上のものとする。 2 間伐に係るもの (1) 主伐に係る伐採の禁止を受けない森林にあつては、伐採をすることができる箇所は、原則として、農林水産省令で定めるところにより算出される樹冠疎密度が10分の8以上の箇所とする。 (2) 主伐に係る伐採の禁止を受ける森林にあつては、原則として、伐採を禁止する。
2 伐採の限度	1 主伐に係るもの (1) 同一の単位とされる保安林等において伐採年度ごとに皆伐による伐採をすることができる面積の合計は、原則として、当該同一の単位とされる保安林等のうちこれに係る伐採の方法として択伐が指定されている森林及び主伐に係る伐採の禁止を受けている森林以外のものの面積の合計に相当する数を、農林水産省令で定めるところにより、当該指定の目的を達成するため相当と認められる樹種につき当該指定施業要件を定める者が標準伐期齢を基準として定める伐期齢に相当する数で除して得た数に相当する面積を超えないものとする。 (2) 地形、気象、土壌等の状況により特に保安機能の維持又は強化を図る必要がある森林については、伐採年度ごとに皆伐による伐採をすることができる1箇所当たりの面積の限度は、農林水産省令で定めるところによりその保安機能の維持又は強化を図る必要の程度に応じ当該指定施業要件を定める者が指定する面積とする。 (3) 風害又は霧害の防備をその指定の目的とする保安林における皆伐による伐採は、原則としてその保安林のうちその立木の全部又は相当部分がおおむね標準伐期齢以上である部分が幅20メートル以上にわたり帯状に残存することとなるようにするものとする。

事 項	基 準
2 伐採の限度	(4) 伐採年度ごとに択伐による伐採をすることができる立木の材積は、原則として、当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積に相当する数に農林水産省令で定めるところにより算出される択伐率を乗じて得た数に相当する材積を超えないものとする。 2 間伐に係るもの 伐採年度ごとに伐採をすることができる立木の材積は、原則として、当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積の10分の3.5を超えず、かつ、その伐採によりその森林に係る第1号2(1)の樹冠疎密度が10分の8を下ったとしても当該伐採年度の翌伐採年度の初日から起算しておおむね5年後においてその森林の当該樹冠疎密度が10分の8以上に回復することが確実にであると認められる範囲内の材積を超えないものとする。
3 植 栽	1 方法に係るもの 満1年以上の苗を、おおむね、1ヘクタール当たり伐採跡地につきの確な更新を図るために必要なものとして農林水産省令で定める植栽本数以上の割合で均等に分布するように植栽するものとする。 2 期間に係るもの 伐採が終了した日を含む伐採年度の翌伐採年度の初日から起算して2年以内に植栽するものとする。 3 樹種に係るもの 保安機能の維持又は強化を図り、かつ、経済的利用に資することができる樹種として指定施業要件を定める者が指定する樹種を植栽するものとする。

別紙２ 自然公園における施業の方法

区 分	施 業 の 方 法
特 別 保護地区	森林の施業に関する制限について、環境大臣はそれぞれの地区につき農林水産大臣と協議して定めるものとする。
第 1 種 特別地域	1 禁伐とする。ただし、風致維持に支障のない場合に限り単木択伐法を行うことができる。 2 単木択伐法は、次の規定により行う。 (1) 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢に10年以上を加えて決定する。 (2) 択伐率は、現在蓄積の10%以内とする。
第 2 種 特別地域	1 択伐法によるものとする。ただし、風致の維持に支障のない限り、皆伐法によることができる。 2 公園計画に基づく車道、歩道、集団施設地区及び単独施設の周辺（造林地、要改良林分、薪炭林を除く）は、原則として単木択伐法によるものとする。 3 伐期齢は標準伐期齢に見合う年齢以上とする。 4 択伐率は用材林においては、現在蓄積の30%以内とし、薪炭林においては、60%以内とする。 5 伐採及び更新に際し、特に風致上必要と認める場合は、環境省自然環境局長及び県知事は、伐区、樹種、林型の変更を要望することができる。 6 特に指定した風致樹については、保育及び保護につとめること。 7 皆伐法による場合その伐区は次のとおりとする。 (1) 1 伐区の面積は2ヘクタール以内とする。ただし、疎密度3より多く保残木を残す場合又は車道、歩道、集団施設地区、単独施設等の主要公園利用地点から望見されない場合は、伐区面積を増大することができる。 (2) 伐区は更新後5年以上経過しなければ連続して設定することはできない。この場合においても、伐区はつとめて分散させなければならない。
第 3 種 特別地域	全般的な風致の維持を考慮して施業を実施し、特に施業の制限を受けないものとする。

別紙 3 砂防指定地等の施業方法

区 分	施 業 の 方 法
砂防指定地	「砂防法施行条例」（平成11年12月17日岩手県条例第73号）で定めるところによる。
鳥獣保護区 特別保護地区	「鳥獣保護区内の森林施業について」（昭和39年 1 月17日38林野計第1043号）による。

計 画 事 項 の 別 表

別表 公益的機能別施業森林の区域及び施業方法

1 水源の涵養^{かんよう}の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位 面積：ha

市町村	森 林 の 所 在 (林 班)	面 積	施業方法
総 数		28,970.37	
大 船 渡 市	計	1,775.58	伐期の延長 長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)
	17～24, 59, 60		
陸前高田市	計	1,337.23	
	45～58		
釜 石 市	計	9,920.73	
	101～121, 123～144, 301～314, 356, 357, 359, 363, 364, 367～369, 371, 372, 374, 376, 377, 379, 382～394, 396, 399, 400, 401, 403～405		
住 田 町	計	6942.75	
	1～12, 25, 27～36, 38～44, 62～67, 69, 73, 75		
大 槌 町	計	8994.08	
	145～180, 183, 186～196, 198～204, 207～214, 216～219, 221～239		

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

2 土地に関する災害の防止機能、土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

① 土地に関する災害の防止機能、土壌の保全機能の維持増進を図る森林

単位 面積：ha

市町村	森 林 の 所 在 (林 班)	面 積	施業方法
総 数		6,742.23	
大船渡市	計	92.43	伐期の延長 長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)
	21, 23, 59, 60		
陸前高田市	計	6.45	
	50, 51		
釜石市	計	3,459.42	
	108～113, 115, 116, 118～121, 123～144, 311～314, 359, 363, 371, 372, 389, 393, 394, 400, 404		
住田町	計	902.00	
	1～4, 7～12, 30～32, 63		
大槌町	計	2,281.93	
	145, 152～158, 160, 161, 165, 167, 168, 173, 180, 183, 188～193, 210, 214, 221～228, 230～238		

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

② 快適な環境の形成の機能の維持増進を図る森林

該当なし。

③ 保健文化機能の維持増進を図る森林

単位 面積：ha

市町村	森 林 の 所 在 (林 班)	面 積	施業方法
総 数		3,285.26	
大 船 渡 市	計	854.50	伐期の延長 長伐期施業 (択伐以外)
	17～23		
釜 石 市	計	1,829.13	
	126, 301～310, 356, 357, 359, 363, 364, 367, 368, 376, 405		
住 田 町	計	321.77	
	5～8		
大 槌 町	計	279.86	
	158, 167, 168, 190, 191, 193, 195, 224～226, 232～234, 236, 237		

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

(附) 参 考 资 料

1 森林計画区の概況

(1) 市町村別土地面積及び森林面積

単位 面積：ha 比率：%

区 分	区域面積 ①	森林面積			森林比率 ②／①×100
		総数②	国有林	民有林	
総 数	※ 153,244	132,135	29,709	102,426	86
大 船 渡 市	※ 32,330	26,489	1,825	24,664	82
陸前高田市	23,229	18,540	1,605	16,935	80
釜 石 市	※ 44,143	39,323	10,126	29,197	89
住 田 町	33,483	29,988	7,159	22,828	90
大 槌 町	20,059	17,796	8,994	8,802	89

注1 区域面積は、国土地理院「平成25年度全国都道府県市区町村別面積調」による。

2 国有林面積は林野庁所管面積（官行造林を含む）で、民有林面積は地域森林計画対象面積。

3 ※印の数値は、境界未定のため参考値を用いた。

4 単位未満を四捨五入するため、総数と内訳の合計は必ずしも合致しない。

(2) 地況（気候）

単位 気温：℃ 降水量：mm 積雪量：cm

観測地	気 温			年間降水量	最深積雪量	備 考
	最 高	最 低	年平均			
釜 石	36.6	-9.8	11.6	1,671	—	
住 田	36.1	-14.1	10.7	1,323	—	
大 船 渡	37.0	-11.0	11.5	1,505	20	

資料 気象庁（2004～2013年）による。

注1 気温の年平均及び年間降水量は2004～2013年までの10ヵ年平均。

2 「—」はデータなし。

(3) 土地利用の現況

単位 面積：ha

区 分	総 数	森 林	農 地			その他
			総 数	うち田	うち畑	
総 数	153,244	132,395	3,690	1,479	2,211	17,159
大 船 渡 市	32,330	26,489	798	285	513	5,043
陸前高田市	23,229	18,540	756	406	350	3,933
釜 石 市	44,143	39,323	749	170	579	4,071
住 田 町	33,483	29,988	988	449	539	2,507
大 槌 町	20,059	17,796	399	169	230	1,864

資料 農地は農林水産省統計部「耕地面積調査」（平成25年）による。

(4) 産業別生産額

単位 百万円

区 分	総 生 産	第 1 次産業				第 2 次産業	第 3 次産業
		総 額	農 業	林 業	水産業		
総 数	273,291	7,354	2,474	280	4,600	106,864	159,073
大 船 渡 市	100,700	2,339	957	64	1,318	35,299	63,062
陸前高田市	39,814	674	336	58	279	17,748	21,392
釜 石 市	97,697	3,095	149	23	2,923	37,635	56,967
住 田 町	14,475	1,102	960	128	14	5,885	7,487
大 槌 町	20,605	144	72	6	66	10,297	10,164

資料 岩手県「平成23年度市町村民所得」による。

注 総生産は、帰属利子等控除後であるため、各産業別生産額の合計値より過小となる。

(5) 産業別就業者数

単位 人

区 分	総 数	第 1 次産業				第 2 次産業	第 3 次産業
		総 数	農 業	林 業	漁 業		
総 数	55,677	5,925	2,304	359	3,262	16,705	32,962
大 船 渡 市	18,663	1,982	570	98	1,314	5,449	11,214
陸前高田市	10,633	1,602	776	88	738	3,013	5,972
釜 石 市	16,900	1,191	256	51	884	4,986	10,712
住 田 町	2,804	631	542	89	—	889	1,282
大 槌 町	6,677	519	160	33	326	2,368	3,782

資料 総務省統計局「平成22年国勢調査」による。

注 総数には「不詳」を含むため、内訳の合計と総数は合致しない。

2 森林の現況

(1) 齢級別森林資源表

単位 面積:ha 材積:立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量:1,000m³/年

区分		総数			1 齢級			2 齢級			3 齢級			4 齢級		
		面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
立木地	総数	29,707.99	4,663	79	152.76			175.48			100.71	3	1	152.23	9	1
	総数 針 広	27,965.05 15,621.27 12,343.78	4,663 2,282 2,380	79 47 32	152.76 151.94 0.82			175.48 166.77 8.71			100.71 66.08 34.63	3 2 1	1	152.23 146.71 5.52	9 8	1
人工林	総数	13,998.76	2,476	53	151.94			166.77			99.99	3	1	131.29	7	1
	総数 針 広	13,852.81 145.95	1,899 577	43 10	151.94			166.77			66.08 33.91	2 1		127.37 3.92	7	1
育成林	総数	13,809.47	2,445	53	151.94			166.77			99.99	3	1	124.80	7	1
	総数 針 広	13,663.52 145.95	1,881 564	43 10	151.94			166.77			66.08 33.91	2 1		120.88 3.92	7	1
育複層成林	総数	(6.49)														
	総数 針 広	189.29 189.29	31 19											6.49 6.49		
天然林	総数	13,966.29	2,186	26	0.82			8.71			0.72			20.94	1	
	総数 針 広	1,768.46 12,197.83	383 1,803	4 22	0.82			8.71						19.34 1.60	1	
育単層成林	総数	269.33	41	1										19.34	1	
	総数 針 広	243.18 26.15	36 5	1										19.34	1	
育複層成林	総数	165.28	21											1.45		
	総数 針 広	15.28 150.00	2 18													
天然生	総数	13,531.68	2,125	24	0.82			8.71			0.72			1.45		
	総数 針 広	1,510.00 12,021.68	345 1,780	3 22	0.82			8.71			0.72			0.15 0.15		
無立木地	竹林	1.65														
	無立木地	1,742.94														

注1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3 ()は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位 面積:ha 材積:立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量:1,000m³/年

区分		5 齡級			6 齡級			7 齡級			8 齡級			9 齡級				
		面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量		
立木地	総数	総数	127.44	15	1	1,013.72	156	7	1,808.75	331	11	2,030.54	383	10	2,779.00	482	10	
		針	127.44	15	1	1,013.72	156	7	1,808.75	331	11	2,030.54	383	10	2,779.00	482	10	
		広	114.58	13	1	935.09	132	6	1,759.30	268	9	1,963.16	293	8	2,434.42	338	7	
	総数	針	12.86	3	1	78.63	24	1	49.45	64	2	67.38	90	2	344.58	144	3	
		総数	119.49	15	1	944.99	151	7	1,752.22	328	11	1,898.24	370	10	2,373.53	451	9	
		針	106.63	12	1	899.32	128	6	1,727.43	265	9	1,896.62	285	8	2,364.33	327	7	
	人工林	広	12.86	3	1	45.67	24	1	24.79	63	2	1.62	84	2	9.20	124	2	
		総数	119.49	15	1	944.99	151	7	1,752.22	328	11	1,893.08	369	10	2,345.26	447	9	
		針	106.63	12	1	899.32	128	6	1,727.43	265	9	1,891.46	285	8	2,336.06	325	7	
	育複層成林	広	12.86	3	1	45.67	24	1	24.79	63	2	1.62	84	2	9.20	122	2	
		総数																
		針																
	天然林	総数	広															
			針	7.95	1	1	68.73	5	4	56.53	4	4	132.30	13	13	405.47	31	1
広			7.95	1	1	35.77	4	4	31.87	2	2	66.54	7	7	70.09	11	1	
育単層成林		広				32.96	1	1	24.66	1	1	65.76	6	6	335.38	20	1	
		総数	7.95	1	1	41.22	4	4	31.87	3	3	48.41	7	7	46.81	8	8	
		針	7.95	1	1	35.77	4	4	31.87	2	2	48.41	7	7	44.13	7	7	
育複層成林		広				5.45									2.68	1	1	
		総数													11.07	2	2	
		針													2.74			
天然生		広													8.33	2	2	
		総数				27.51	1	1	24.66	1	1	83.22	7	7	347.59	20	1	
		針													23.22	3	3	
無立木地		広				27.51	1	1	24.66	1	1	65.22	6	6	324.37	17	1	
		竹林																
	総数																	

注1 人工林及び天然林で点生木のみ其林分については、本表の集計には含まれていない。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3 ()は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位 面積:ha 材種:立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量:1,000m³/年

区分		1 0 齡級			1 1 齡級			1 2 齡級			1 3 齡級			1 4 齡級			
		面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	
立木地	総数	総数	2,904.97	468	8	1,755.89	320	5	1,562.27	275	4	1,746.12	259	5	798.84	136	2
		針	2,904.97	468	8	1,755.89	320	5	1,562.27	275	4	1,746.12	259	5	798.84	136	2
		広	2,639.85	325	5	1,554.52	235	3	1,178.63	171	2	483.63	75	1	201.34	32	
	総数	針	265.12	143	2	201.37	85	2	383.64	105	2	1,262.49	184	4	597.50	104	2
		総数	2,620.29	439	7	1,541.21	289	4	1,138.03	214	2	381.95	72	1	163.93	34	
		針	2,620.29	322	5	1,541.21	233	3	1,134.21	164	2	381.95	57		163.93	25	
	人工林	広		118	2		56	1	3.82	50	1		15			9	
		総数	2,556.09	431	7	1,520.13	286	4	1,135.23	213	2	364.94	70	1	163.93	32	
		針	2,556.09	317	5	1,520.13	231	3	1,131.41	164	2	364.94	55		163.93	23	
	広		113	2		55	1	3.82	50	1		14		(6.49)	9		
立木地	育成林	総数															
		針	64.20	9		21.08	3		2.80			17.01	2			2	
		広	64.20	4		21.08	2		2.80			17.01	1			2	
	総数	広		4			1						1				
		総数	284.68	29	1	214.68	30	1	424.24	62	2	1,364.17	187	4	634.91	102	2
		針	19.56	3		13.31	2		44.42	7		101.68	18		37.41	7	
	天然林	広	265.12	26	1	201.37	28	1	379.82	55	1	1,262.49	169	4	597.50	96	2
		総数	7.20	1		2.73			17.37	2		46.43	9				
		針	7.20	1		2.41			14.76	2		31.34	6				
	育成林	広				0.32			2.61			15.09	3				
立木地	天然林	総数	17.75	2		6.77	1		26.91	5		37.48	3		10.27	1	
		針	2.55			0.43			9.43	2							
		広	15.20	2		6.34	1		17.48	3		37.48	3		10.27	1	
		総数	259.73	25	1	205.18	29	1	379.96	55	1	1,280.26	175	4	624.64	101	2
		針	9.81	1		10.47	2		20.23	3		70.34	13		37.41	6	
立木地	無立木地	広	249.92	24	1	194.71	28	1	359.73	51	1	1,209.92	163	4	587.23	95	2
		針															
		広															

注1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3 ()は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位 面積:ha 材積:立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量:1,000m³/年

区分		1 5 齡級			1 6 齡級			1 7 齡級			1 8 齡級			1 9 齡級			
		面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	面積	材積	成長量	
立木地	総数	総数	969.50	161	2	569.71	102	1	894.53	145	2	644.06	117	1	775.58	134	1
		針	969.50	161	2	569.71	102	1	894.53	145	2	644.06	117	1	775.58	134	1
		広	175.67	30		117.12	19		225.17	31		80.96	14		18.43	4	
	総数	総数	793.83	131	2	452.59	83	1	669.36	113	2	563.10	103	1	757.15	131	1
		針	139.64	33		92.79	20		178.41	30		58.54	12		6.51	2	
		広	138.90	23		92.79	13		178.41	23		55.88	9		6.51	1	
	人工林	育単層成林	0.74	10			7			7		2.66	3		1		
		総数	138.27	32		87.64	19		164.68	28		47.34	9		5.41	2	
		針	137.53	22		87.64	12		164.68	22		44.68	7		5.41	1	
	広	0.74	10			7			6		2.66	2		1			
天然林	育複層成林	総数	1.37	1		5.15	1		13.73	2		11.20	3		1.10		
		針	1.37	1		5.15	1		13.73	1		11.20	2		1.10		
		広								1			2				
	総数	総数	829.86	128	2	476.92	82	1	716.12	115	2	585.52	104	1	769.07	132	1
		針	36.77	7		24.33	6		46.76	9		25.08	5		11.92	2	
		広	793.09	121	2	452.59	76	1	669.36	107	2	560.44	99	1	757.15	130	1
	育単層成林	総数		1			1						1				
		針						1						1			
		広															
	育複層成林	総数	7.56	1		2.27			41.01	5							
針																	
広		7.56	1		2.27			41.01	5								
天然生	総数	822.30	127	2	474.65	81	1	675.11	109	2	585.52	104	1	769.07	132	1	
	針	36.77	7		24.33	5		46.76	8		25.08	5		11.92	2		
	広	785.53	120	2	450.32	76	1	628.35	101	1	560.44	99	1	757.15	130	1	
竹林																	
無立木地																	

注1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3 () は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

単位 面積:ha 材積:立木は1,000m³ 立竹は1,000束 成長量:1,000m³/年

区分		2 0 齡級			2 1 齡級以上		
		面積	材積	成長量	面積	材積	成長量
立木地	総数	総数	619.76	97	1	6,383.19	1,070
		針	619.76	97	1	6,383.19	1,070
		広	31.69	5		1,176.21	288
	総数	総数	588.07	92	1	5,206.98	782
		針	17.22	3		21.78	4
		広	10.46	1		21.78	2
	人工林	総数	6.76	2			1
		針	16.28	3		10.99	2
		広	9.52	1		10.99	2
	育複層成林	総数	6.76	2			1
		針	0.94			10.79	2
		広	0.94			10.79	1
	総数	総数	602.54	94	1	6,361.41	1,066
		針	21.23	4		1,154.43	286
		広	581.31	90	1	5,206.98	780
天然林	育単層成林	総数				1	
		針				1	
		広					
	育複層成林	総数	2.07				
		針					
		広	2.07				
	天然生	総数	600.47	93	1	6,361.41	1,066
		針	21.23	4		1,154.43	285
		広	579.24	89	1	5,206.98	780
	竹林						
	無立木地						

注1 人工林及び天然林で点生木のみの林分については、本表の集計には含まれていない。

2 竹林の集計値については、総計欄には含まれていない。

3 ()は、人工林の育成複層林の上、中層木の面積で外書。

(2) 制限林普通林森林資源表

単位 面積：ha 材積：m³ 成長量：m³/年

区分		立木地										無立木地等				
		人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改植予定地	林地以外の地	計
		育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	育成単層林	育成複層林	計	天然林	計					
制限林	面積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	材積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	成長量	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	面積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	材積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
普通林	面積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	材積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	成長量	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	面積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	材積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
計	面積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	材積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	成長量	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	面積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計
	材積	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	計	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	針 広	計

注1 人工林及び天然林で点生木のみの林分の面積については、本表の集計には含まれていない。
 2 竹林の集計値については、立木地の計欄及び立木地と無立木地等の合計欄には含まれていない。

(3) 市町村別森林資源表

単位 面積：ha 材積：m³ 成長量：m³/年

市町村	区分	立木地										無立木地等					
		人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改植 予定地	林地以外の 土地	計	
		育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	天然生林	計	竹林	計							
大船渡市	面積	針	387.20	5.51	392.71	23.42	0.78	161.14	185.34		578.05						
		広	7.87		7.87	2.83	4.04	1,090.31	1,097.18		1,105.05						
		計	395.07	5.51	400.58	26.25	4.82	1,251.45	1,282.52		1,683.10	5.52			136.59	142.11	1,825.21
	材積	針	79,312	824	80,136	2,717	62	27,601	30,380		110,516						110,516
		広	6,425	236	6,661	382	275	160,021	160,678		167,339						167,339
		計	85,737	1,060	86,797	3,099	337	187,622	191,058		277,855						277,855
	成長量	針	1,838.6	9.0	1,847.6	89.9	1.4	232.4	323.7		2,171.3						2,171.3
		広	108.3	3.6	111.9	20.6	11.2	2,044.3	2,076.1		2,188.0						2,188.0
		計	1,946.9	12.6	1,959.5	110.5	12.6	2,276.7	2,399.8		4,359.3						4,359.3
	面積	針	953.52	30.41	983.93	48.54		17.56	66.10		1,050.03						
広					2.62	0.15	220.37	223.14		223.14							
計		953.52	30.41	983.93	51.16	0.15	237.93	289.24	1.65	1,273.17	28.95			301.10	330.05	1,603.22	
陸前高田市	材積	針	205,889	3,447	209,336	4,913		4,080	8,993		218,329						218,329
		広	8,404	2,834	11,238	408	6	39,027	39,441		50,679						50,679
		計	214,293	6,281	220,574	5,321	6	43,107	48,434	257	269,008						269,008
	成長量	針	4,945.0	31.6	4,976.6	147.0		31.0	178.0		5,154.6						5,154.6
		広	131.8	15.8	147.6	15.2	0.1	709.3	724.6		872.2						872.2
		計	5,076.8	47.4	5,124.2	162.2	0.1	740.3	902.6		6,026.8						6,026.8
	面積	針	3,869.22	55.90	3,925.12	31.56	0.79	751.49	783.84		4,708.96						
		広	42.20		42.20	4.20	32.59	4,774.24	4,811.03		4,853.23						
		計	3,911.42	55.90	3,967.32	35.76	33.38	5,525.73	5,594.87		9,562.19	41.40			522.50	563.90	10,126.09
	釜石市	材積	針	492,534	7,365	499,899	3,855	133	202,004	205,972		705,871					
広			154,094	3,633	157,727	878	3,646	694,469	698,993		856,720						856,720
計			646,628	10,998	657,626	4,713	3,779	896,473	904,965		1,562,591						1,562,591
成長量		針	9,795.1	107.3	9,902.4	112.8	1.3	1,508.0	1,622.1		11,524.5						11,524.5
		広	2,479.4	40.5	2,519.9	29.9	85.3	7,394.0	7,509.2		10,029.1						10,029.1
		計	12,274.5	147.8	12,422.3	142.7	86.6	8,902.0	9,131.3		21,553.6						21,553.6
面積		針	3,657.29	29.35	3,686.64	46.60		416.54	467.11		4,153.75						
		広	17.52		17.52		33.45	2,484.17	2,517.62		2,535.14						
		計	3,674.81	29.35	3,704.16	46.60	37.42	2,900.71	2,984.73		6,688.89	10.84			459.66	470.50	7,159.39
住田町		材積	針	581,926	2,113	584,039	7,947	639	83,822	92,408		676,447					
	広		166,616	1,648	168,264	44	5,028	416,211	421,283		589,547						589,547
	計		748,542	3,761	752,303	7,991	5,667	500,033	513,691		1,265,994						1,265,994
	成長量	針	15,403.7	33.5	15,437.2	190.7	7.8	672.4	870.9		16,308.1						16,308.1
		広	3,052.4	22.5	3,074.9	0.7	91.1	6,345.3	6,437.1		9,512.0						9,512.0
		計	18,456.1	56.0	18,512.1	191.4	98.9	7,017.7	7,308.0		25,820.1						25,820.1
	面積	針	4,796.29	68.12	4,864.41	93.06	9.74	163.27	266.07		5,130.48						
		広	78.36		78.36	16.50	79.77	3,452.59	3,548.86		3,627.22						
		計	4,874.65	68.12	4,942.77	109.56	89.51	3,615.86	3,814.93		8,757.70	42.10			194.28	236.38	8,994.08
	大槌町	材積	針	521,029	5,022	526,051	16,148	1,618	27,481	45,247		571,298					
広			228,747	4,134	232,881	3,428	9,475	470,178	483,081		715,962						715,962
計			749,776	9,156	758,932	19,576	11,093	497,659	528,328		1,287,260						1,287,260
成長量		針	11,006.9	78.8	11,085.7	323.2	25.1	274.4	622.7		11,708.4						11,708.4
		広	4,093.7	55.4	4,149.1	94.0	249.4	5,214.8	5,558.2		9,707.3						9,707.3
		計	15,100.6	134.2	15,234.8	417.2	274.5	5,489.2	6,180.9		21,415.7						21,415.7

注 1 人工林及び天然林で点生木のみの林分の面積については、本表の集計には含まれていない。

2 複層林は下層木のみを対象とする。

単位 面積：ha 材積：m³ 成長量：m³/年

市町村	区分	立木地										無立木地等					計
		人工林					天然林					伐採跡地	未立木地	改植 予定地	林地以外の 土 地	計	
		育成単層林	育成複層林	計	育成単層林	育成複層林	天然生林	計									
森林計画計	面積	針	13,663.52	145.95	189.29	13,852.81	243.18	15.28	1,510.00	1,768.46	15,621.27						
		広					26.15	150.00	12,021.68	12,197.83	12,343.78						
	計	13,809.47	189.29	189.29	13,998.76	269.33	165.28	13,531.68	13,966.29	1.65	27,965.05						
	材積	針	1,880,690	18,771	18,771	1,899,461	35,560	2,452	344,988	383,000	2,282,461						29,707.99
		広	564,286	12,485	12,485	576,771	5,140	18,430	1,779,906	1,803,476	2,380,247						2,282,461
	計	2,444,976	31,256	31,256	2,476,232	40,700	20,882	2,124,894	2,186,476	257	4,662,708						4,662,708
成長量	針	42,989.3	260.2	260.2	43,249.5	863.6	35.6	2,718.2	3,617.4	46,866.9						46,866.9	
	広	9,865.6	137.8	137.8	10,003.4	160.4	437.1	21,707.7	22,305.2	32,308.6						32,308.6	
	計	52,854.9	398.0	398.0	53,252.9	1,024.0	472.7	24,425.9	25,922.6	79,175.5						79,175.5	

注 1 人工林及び天然林で点生木のみの林分の面積については、本表の集計には含まれていない。
2 複層林は下層木のみを対象とする。

(4) 制限林の種類別面積

単位 面積：ha

区分	市町村									
	大船渡市	陸前高田市	釜石市	住田町	大槌町	合計				
水源かん養保安林	1,504.81	896.48	8,879.42	6,107.37	7,975.20	25,363.28				
土砂崩壊防備保安林	0.17					0.17				
土砂崩壊防備保安林		2.92		6.22		9.14				
飛砂防備保安林										
防風保安林										
水害防備保安林										
潮害防備保安林										
干害防備保安林										
防雪保安林										
防霧保安林										
なだれ防止保安林										
落石防止保安林										
防火保安林										
魚つき保安林										
航行目標保安林										
保健保安林	(252.61)		(544.74)	499.96	(317.28)	0.06	(1,114.63)			500.02
風致保安林										
計	(252.61)	899.40	(544.74)	9,379.38	(317.28)	6,113.65	(1,114.63)	7,975.20		25,872.61
保安施設地区										
砂防指定地										
特別保護地区				7.59	(12.80)		(1.25)	0.62		12.39
第一種特別地域										
第二種特別地域										
第三種特別地域										
地種区分未定地域										
計										
特別保護地区										
第一種特別地域										
第二種特別地域										
第三種特別地域										
地種区分未定地域										
計										
都	(47.80)		(131.70)	0.07	(55.86)		(235.36)			0.07
自然	(204.81)		(551.91)	0.01	(261.48)	4.43	(1,018.20)			4.44
府	(757.19)	79.56	(391.09)	257.05	(343.37)	15.76	(1,491.65)			352.37
県										
立	(1,009.80)	79.56	(1,074.70)	257.13	(660.71)	20.19	(2,745.21)			356.88
原生自然環境保全地域										
自然環境保全地域特別地区										
都道府県自然環境保全地域特別地区										
鳥獣保護区特別保護地区	(279.62)		(609.64)		(261.35)		(1,150.61)			
緑地保全地区										
風致地区										
特別母樹林										
史跡名勝天然記念物										
種の保存法による管理地区										
その他										
合計	(1,542.03)	1,588.72	(2,234.98)	9,644.10	(1,252.14)	6,133.84	(5,030.40)	7,975.82		26,241.88

注 () は、重複する制限林面積を表す。

(5) 樹種別材積表

単位 材積：1,000m³

樹種 林種	スギ	ヒバ	カラマツ	アカマツ	その他 針葉樹	ブナ	ミズナラ	その他 広葉樹
総数	726	171	533	722	130	142	133	2,105
人工林	719	1	529	633	17	0	2	575
天然林	7	170	5	89	113	142	131	1,530

注 単位未満を四捨五入するため、総数と内訳の合計は必ずしも合致しない。

(6) 荒廃地の面積

単位 面積：ha

	荒 廃 地
総数	2.94
大船渡市	—
陸前高田市	—
釜石市	0.90
住田町	0.16
大槌町	1.88

(7) 森林の被害

単位 面積：ha

区 分	風 水 害				病 虫 害				雪 害				獣 類 害			
	22	23	24	25	22	23	24	25	22	23	24	25	22	23	24	25
総数	—	—	—	—	0	—	0	0	—	—	—	—	5	—	—	7
大船渡市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
陸前高田市	—	—	—	—	0	—	0	0	—	—	—	—	5	—	—	7
釜石市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
住田町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大槌町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

資料 東北森林管理局事業統計書による。

注 「—」は被害なし、「0」は被害が1ha未満。

3 林業の動向

(1) 森林組合及び生産森林組合の現況

ア 構成

単位 員数：人 金額：千円 面積：ha

市町村別		組合名	組合員数	常勤役 職員数	出資金 総額	組合員所有 (又は組合経営) 森林面積	備 考
森 林 組 合	総 数	3 組合	6,897	39	269,537	81,504	
	大船渡市	気仙地方	3,542	21	109,421	37,957	
	住田町						
	陸前高田市	陸前高田市	1,678	9	60,640	13,432	
	釜石市	釜石地方	1,677	9	99,476	30,115	
	大槌町						
生 産 森 林 組 合	総 数	24組合	1,391	21	243,702	2,108	
	大船渡市	坂本沢	27	—	1,400	53	
		鷹生	56	—	31,900	70	
		千歳	26	—	2,600	44	
		上富岡	27	—	7,695	27	
		下富岡	37	—	15,235	36	
		吉浜	303	1	3,684	61	
		蛸ノ浦清水	205	—	2,050	24	
		永浜	42	—	9,600	59	
		蛸ノ浦契約会	142	—	44,100	121	
	陸前高田市	枅内	32	—	8,160	72	
	住田町	竹ノ原	26	—	1,560	65	
		川口	29	—	2,900	95	
		船作山	96	—	21,000	409	
		新田山	67	1	4,406	42	
		安本山	36	—	3,600	63	
	釜石市	一の渡	19	6	3,800	—	
		松倉	66	9	5,280	99	
		尾崎白浜	71	4	14,800	236	
		洞泉	10	—	9,000	134	
		太田林	20	—	11,400	77	
		早栃	16	—	13,130	21	
		定内	24	—	26,402	262	
	大槌町	折合	14	—	—	38	
		浪板	—	—	—	—	

資料 平成25年度（平成24年度実績） 森林組合要覧（岩手県農林水産部団体指導課）

イ 事業内容及び活動状況等

単位：千円

森 林 組合名	指 導 事 業	販 売 事 業	林 産 事 業	加 工 事 業	購 買 事 業
総 数	3,489	154,037	346,377	497	34,672
気仙地方	362	12,629	56,582	497	27,040
陸前高田市	158	40,921	178,952	—	4,508
釜石地方	2,969	100,487	110,843	—	3,124

森 林 組合名	養 苗	森林造成 事 業	利用・福利厚生 事 業	金 融 事 業	合 計
総 数	—	492,345	268,712	2,965	1,303,094
気仙地方	—	177,666	96,852	972	372,600
陸前高田市	—	160,470	72,151	51	457,211
釜石地方	—	154,209	99,709	1,942	473,283

資料 平成25年度（平成24年度実績） 森林組合要覧（岩手県農林水産部団体指導課）

(2) 林業事業体等の現況

単位：事業体数

区 分	林業経営体	木材卸売業 (素材市売市場)	木材・木製品 製造業
総 数	38	2	18
大 船 渡 市	9	—	4
陸 前 高 田 市	12	1	4
釜 石 市	4	1	1
住 田 町	10	—	7
大 槌 町	3	—	2

資料 林業経営体数は「2010年農林業センサス」より、

【林業経営体数】－【組織形態別経営体数（法人化している経営体数）】を計上。

木材卸売業は素材市売市場を計上。

木材・木製品製造業は平成24年工業統計調査報告書（従業者4名以上の事業所）。

(3) 林業労働力の概況

単位 人、%

区 分	就業者数（15歳以上）		
	総 数	うち林業	割 合
総 数	55,677	359	0.64
大 船 渡 市	18,663	98	0.53
陸 前 高 田 市	10,633	88	0.83
釜 石 市	16,900	51	0.30
住 田 町	2,804	89	3.17
大 槌 町	6,677	33	0.49

資料 総務省統計局「平成22年国勢調査」による。

注 総数には「不詳」を含む。

(4) 林業機械化の概況（高性能林業機械）

単位 台

機械種名	総 数	備 考
フェラーバンチャ	1	立木を伐倒する自走式機械
スキッダ	5	牽引式集材専用トラクタ
プロセッサ	16	枝払・玉切する自走式機械
ハーベスタ	6	伐倒・枝払・玉切する自走式機械
フォワーダ	10	積載式集材専用トラクタ
タワーヤーダ	3	元柱を具備した自走式集材機
スイングヤーダ	3	簡易索張式に対応し、かつ旋回可能なブームを装備
グラップルソー	—	巻き立て・玉切り機械

資料 林業機械保有状況調査（平成25年3月31日）

4 前期計画の実行状況

(1) 伐採立木材積

単位 材積：1,000m³ 実行歩合：％

区 分	総 数			主 伐			間 伐		
	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
総 数	475	295	62	181	125	69	294	171	58
針葉樹	475	228	48	181	104	57	294	124	42
広葉樹	—	67	—	—	7	—	—	47	—

(2) 人工造林・天然更新別の面積

単位 面積：ha 実行歩合：％

総 数			人工造林			天然更新		
計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
397	126	32	384	122	32	13	4	30

(3) 林道の開設又は拡張の数量

単位 延長：km 実行歩合：％

開 設			拡 張		
計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
11.8	4.0	34	1.5	1.6	107

(4) 保安施設の数量

ア 保安林の指定又は解除の面積

単位 面積：ha 実行歩合：％

種 類	指 定			解 除		
	計 画	実 行	実行歩合	計 画	実 行	実行歩合
総 数	493	—	—	—	—	—
水源かん養	493	—	—	—	—	—
災害防備	—	—	—	—	—	—
保健、風致の保存等	—	—	—	—	—	—

注 「0」は1ha未満

イ 保安施設地区の指定

該当なし。

ウ 保安施設事業

単位 地区数

計 画	実 行
54	70

5 林地の異動状況（森林計画の対象森林）

（１）森林より森林以外へ異動

単位 面積：ha

農用地	ゴルフ場等 レジャー施設 用地	住宅、別荘、工 場等建物敷地及 びその附帯地	採石採土地	その他	合 計
—	—	—	—	268.24	268.24

（２）森林以外より森林へ異動

単位 面積：ha

原 野	農用地	その他	合 計
—	—	0.44	0.44

6 森林資源の推移

（１）分期別伐採立木材積等

単位 材積：1,000m³ 面積：ha

分 期			I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
伐 採 立 木 材 積	總 數	總 數	513	423	404	394	383	390	383	376
		針葉樹	421	423	404	394	383	390	383	376
		広葉樹	92	0	0	0	0	0	0	0
	主 伐	總 數	195	123	97	110	119	125	133	126
		針葉樹	169	123	97	110	119	125	133	126
		広葉樹	25	0	0	0	0	0	0	0
	間 伐	總 數	318	300	307	284	264	266	250	249
		針葉樹	251	300	307	284	264	266	250	249
		広葉樹	67	0	0	0	0	0	0	0
造林 面積	總 數		416	563	509	489	502	495	501	478
	人工造林		357	293	218	214	216	188	196	198
	天然更新		59	270	290	275	285	306	305	280

注 1 分期とは5年を一括りとする単位。第Ⅰ分期は平成27年から平成31年までとなる。

2 単位未満を四捨五入するため、内訳の合計と総数は必ずしも合致しない。

(2) 分期別期首資源表

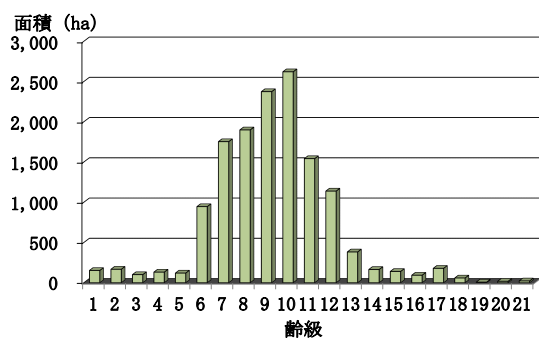
単位 面積：ha、材積：1,000m³

区 分		面 積												材積
		総 数	1・2 齢 級	3・4 齢 級	5・6 齢 級	7・8 齢 級	9・10 齢 級	11・12 齢 級	13・14 齢 級	15・16 齢 級	17・18 齢 級	19・20 齢 級	21 齢級以上	
Ⅰ 分期	総 数	27,965	328	253	1,141	3,839	5,684	3,318	2,545	1,539	1,539	1,395	6,383	4,663
	人工林	13,999	319	231	1,064	3,650	4,994	2,679	546	232	237	24	22	2,476
	育成単層林	13,809	319	225	1,064	3,645	4,901	2,655	529	226	212	22	11	2,445
	育成複層林	189	0	6	0	5	92	24	17	7	25	2	11	31
	天然林	13,966	10	22	77	189	690	639	1,999	1,307	1,302	1,372	6,361	2,186
	育成単層林	269	0	19	49	80	54	20	46	0	0	0	0	41
	育成複層林	65	0	1	0	1	0	6	38	0	17	2	0	7
	天然生林	13,632	10	1	28	108	636	613	1,914	1,307	1,285	1,370	6,361	2,139
Ⅱ 分期	総 数	27,658	574	276	280	2,818	4,683	4,337	3,106	1,746	1,418	1,420	7,003	5,137
	人工林	13,688	573	267	251	2,692	4,145	3,833	1,317	281	225	65	39	2,558
	育成単層林	13,497	572	267	244	2,692	4,111	3,748	1,297	280	206	53	27	2,527
	育成複層林	191	1	0	6	0	34	85	20	1	19	12	12	31
	天然林	13,970	1	9	29	125	538	503	1,788	1,465	1,193	1,355	6,964	2,579
	育成単層林	269	0	0	27	73	95	10	64	0	0	0	0	37
	育成複層林	70	0	0	0	1	0	1	7	35	7	17	0	2
	天然生林	13,632	1	9	0	52	442	486	1,690	1,458	1,176	1,355	6,962	2,534
Ⅲ 分期	総 数	27,623	979	328	253	1,138	3,824	5,171	2,768	2,392	1,458	1,537	7,776	5,349
	人工林	13,656	972	319	231	1,061	3,635	4,479	2,129	399	152	235	43	2,664
	育成単層林	13,459	968	319	225	1,061	3,626	4,387	2,105	382	145	210	30	2,630
	育成複層林	197	4	0	6	0	9	93	24	17	7	25	13	34
	天然林	13,967	8	10	22	77	189	691	638	1,993	1,306	1,302	7,733	2,686
	育成単層林	266	6	0	19	49	80	50	20	42	0	0	0	39
	育成複層林	71	0	0	1	0	1	5	6	38	0	17	2	8
	天然生林	13,630	2	10	1	28	108	636	613	1,913	1,306	1,284	7,731	2,638
Ⅳ 分期	総 数	27,653	1,094	574	276	280	2,806	4,353	3,863	2,889	1,690	1,413	8,416	5,544
	人工林	13,683	1,071	573	267	251	2,681	3,822	3,362	1,113	227	220	98	2,767
	育成単層林	13,480	1,064	572	267	244	2,677	3,784	3,277	1,094	226	201	74	2,730
	育成複層林	203	7	1	0	6	4	38	84	19	1	19	24	37
	天然林	13,970	23	1	9	29	125	531	502	1,776	1,463	1,193	8,317	2,777
	育成単層林	265	17	0	0	27	73	85	8	54	0	0	0	40
	育成複層林	75	1	0	0	1	0	5	7	35	7	17	2	9
	天然生林	13,630	4	1	9	0	52	442	486	1,687	1,457	1,176	8,315	2,727
Ⅴ 分期	総 数	27,644	1,051	979	328	253	1,117	3,632	4,706	2,512	2,323	1,436	9,305	5,707
	人工林	13,668	1,018	972	319	231	1,040	3,446	4,022	1,876	341	131	273	2,851
	育成単層林	13,463	1,012	968	319	225	1,038	3,433	3,930	1,853	326	124	235	2,812
	育成複層林	206	6	4	0	6	2	13	92	23	15	7	38	39
	天然林	13,976	33	8	10	22	77	187	684	636	1,982	1,306	9,033	2,856
	育成単層林	265	26	6	0	19	49	70	43	18	34	0	0	40
	育成複層林	81	1	0	0	1	0	9	5	6	38	0	19	10
	天然生林	13,630	5	2	10	1	28	108	636	612	1,910	1,306	9,014	2,806
Ⅵ 分期	総 数	27,661	1,005	1,094	574	276	274	2,675	3,924	3,590	2,771	1,659	9,820	5,847
	人工林	13,674	968	1,071	573	267	245	2,541	3,405	3,090	1,006	197	311	2,924
	育成単層林	13,467	965	1,064	572	267	237	2,535	3,368	3,006	988	196	268	2,883
	育成複層林	207	3	7	1	0	8	6	38	84	17	1	43	41
	天然林	13,987	37	23	1	9	29	134	519	500	1,765	1,462	9,509	2,923
	育成単層林	264	31	17	0	0	27	64	72	7	46	0	0	40
	育成複層林	93	1	1	0	0	1	17	5	7	35	7	19	12
	天然生林	13,630	5	4	1	9	0	52	442	486	1,685	1,456	9,490	2,872
Ⅶ 分期	総 数	27,645	971	1,051	979	328	251	1,072	3,244	4,376	2,368	2,280	10,724	5,956
	人工林	13,635	932	1,018	972	319	230	970	3,068	3,698	1,735	308	387	2,975
	育成単層林	13,427	929	1,012	968	319	222	967	3,055	3,607	1,712	294	343	2,932
	育成複層林	208	2	6	4	0	8	3	13	92	23	14	44	43
	天然林	14,010	40	33	8	10	22	102	176	678	634	1,973	10,337	2,981
	育成単層林	265	34	26	6	0	19	41	59	37	16	28	0	40
	育成複層林	115	1	1	0	0	1	33	9	5	6	38	19	14
	天然生林	13,630	5	5	2	10	1	28	108	636	612	1,907	10,317	2,927
Ⅷ 分期	総 数	27,639	975	1,005	1,094	574	258	311	2,358	3,549	3,371	2,694	11,450	6,040
	人工林	13,597	935	968	1,071	573	249	233	2,235	3,041	2,872	939	482	3,011
	育成単層林	13,388	933	965	1,064	572	248	224	2,229	3,003	2,789	923	437	2,967
	育成複層林	209	2	3	7	1	1	9	6	38	83	16	44	44
	天然林	14,042	40	37	23	1	9	78	123	508	499	1,755	10,968	3,028
	育成単層林	266	34	31	17	0	0	24	54	62	5	38	0	39
	育成複層林	147	1	1	1	0	0	54	17	5	7	35	26	17
	天然生林	13,630	5	5	4	1	9	0	52	441	486	1,683	10,942	2,971
Ⅸ 分期	総 数	27,660	957	971	1,051	979	329	285	912	2,875	4,086	2,262	12,953	6,116
	人工林	13,579	918	932	1,018	972	320	198	817	2,708	3,413	1,630	654	3,050
	育成単層林	13,369	915	929	1,012	968	319	190	814	2,696	3,322	1,607	597	3,004
	育成複層林	211	2	2	6	4	1	9	3	13	91	23	57	46
	天然林	14,081	39	40	33	8	10	87	95	167	673	632	12,299	3,066
	育成単層林	267	33	34	26	6	0	16	34	50	32	14	22	40
	育成複層林	184	1	1	1	0	0	69	33	9	5	6	57	21
	天然生林	13,629	5	5	5	2	10	1	28	108	636	612	12,220	3,006

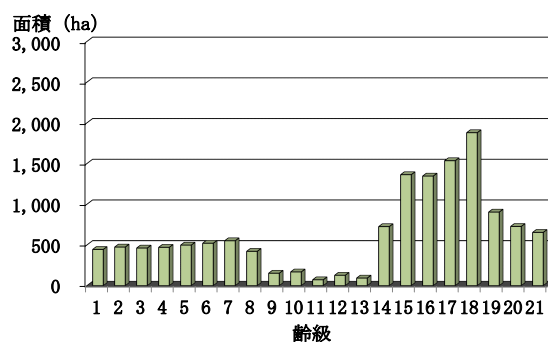
注 単位未満を四捨五入するため、総数と内訳の合計は必ずしも合致しない。

○ 第Ⅰ分期及び第Ⅸ分期期首の人工林齢級別面積

第Ⅰ分期期首（平成27年）



第Ⅸ分期期首（平成67年）



注 年齢級は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を「1年齢級」と数える。

7 その他

（1）国有林の地域別の森林計画の沿革

樹立時期	区 分	計画期間	
平成3年12月	一斉樹立	自 平成4年4月1日 至 平成12年3月31日	8年
平成6年12月	経常樹立	自 平成7年4月1日 至 平成17年3月31日	10年
平成9年12月	一斉変更	自 平成7年4月1日 至 平成17年3月31日	10年
平成10年12月	一斉変更	自 平成7年4月1日 至 平成17年3月31日	10年
平成11年12月	経常樹立	自 平成12年4月1日 至 平成22年3月31日	10年
平成13年12月	一斉変更	自 平成12年4月1日 至 平成22年3月31日	10年
平成15年12月	一斉変更	自 平成12年4月1日 至 平成22年3月31日	10年
平成16年12月	経常樹立	自 平成17年4月1日 至 平成27年3月31日	10年
平成21年12月	経常樹立	自 平成22年4月1日 至 平成32年3月31日	10年
平成23年12月	一斉変更	自 平成22年4月1日 至 平成32年3月31日	10年
平成26年12月	経常樹立	自 平成27年4月1日 至 平成37年3月31日	10年

(2) 担当者の役職及び氏名並びに樹立に従事した期間

職 名	氏 名	樹立に従事した期間
計画課長	林 視	平成26年4月～12月
流域管理指導官	菅原 健一	平成26年4月～12月
計画課長補佐	庄司 卓矢	平成26年4月～12月
森林施業調整官	岩間 由文	平成26年4月～12月
計画調整官	斎藤 勇幸	平成26年4月～12月
企画係長	剣持 直樹	平成26年4月～12月
経営計画官	新倉 和宏	平成26年4月～12月
経営計画官	北村 一郎	平成26年4月～12月